

歴代志略上

第一章

一 アダム、セツ、エノス
 二 ケナン、マハラレル、ヤレド
 三 エノク、メトセラ、ラメク
 四 ノア、

五 ヤベテの子等はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラス
 六 ゴメルの子等はアシケナ
 七 ヤワンの子等はエリシヤ、タルシシ、キツテム、ドダニム
 八 リバテ、トガルマ

九 ハムの子等はクシ、ミツライム、ブテ、カナン
 十 クシの子等はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテ
 十一 カ、ラアマの子等はセバとデダン
 十二 クシ、ニムロデを生り彼はじめて世の権力ある者となれり
 十三 ミツライム

十四 はルデ族アナミ族レハビ族ナフト族
 十五 バテロス族カスル族カフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり
 十六 カナンその家子シドンおよびヘテを生り
 十七 またエブス族アモリ族ギルガシ族
 十八 ヒビ族アルキ族セニ族
 十九 アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り

二十 セムの子等はエラム、アシエル、アルバクサデ、ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセク
 二十一 アルバ
 二十二 クサデ、シラを生みシラ、エベルを生り
 二十三 エベルに二人の子生れたりその一人の名をペレグ(分)と曰ふ其は彼
 二十四 の代に地の人散り分れたればなりその弟の名をヨクタンと曰ふ
 二十五 ヨクタンはアルモダデ、シヤレフ、ハザルマ
 二十六 ウテ、エラ
 二十七 ハドラム、ウザル、デクラ
 二十八 エバル、アビマエル、シバ
 二十九 オフル、ハビラおよびヨバブを生り

三十 是等はみなヨクタンの子なり
 三十一 セム、アルバクサデ、シラ
 三十二 エベル、ペレグ、リウ
 三十三 セルグ、ナホル、テラ
 三十四 アブラム是すなはち

三十五 歴代志略上 一・一——二七
 三十六 七三三

イ創四・二五、二六、
 五・三、九
 ハ創一〇・六
 ニ創一〇・八、一三
 ホ申二・二三
 ヘ創一〇・一五
 ト創一〇・三三、一一・
 一〇
 チ創一〇・二六
 リ創一一・一〇
 路三
 ヌ創一一・一五
 ル創一七・五

アブラハムなり

二八 アブラハムの子等はイサクおよびイシマエル 二九 彼らの子孫は左のごとしイシマエルの家子はネバヨテ

三〇 次はケダル、アデビエル、ミブサム 三〇 ミシマ、ドマ、マツサ、ハダデ、テマ 三一 エトル、ネフシ、ケデマ、

イシマエルの子孫は是の如し

三二 アブラハムの妾ケトラの生る子は左のごとし彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、

三三 シユワを生りヨクシヤンの子等はシバおよびデダン 三三 ミデアンの子等はエバ、エベル、ヘノク、アビダ、エル

ダア是等はみなケトラの生る子なり

三四 アブラハム、イサクを生りイサクの子等はエサウとイスラエル

三五 エサウの子等はエリバズ、リウエル、エウシ、ヤラム、コラ 三六 エリバズの子等はテマン、オマル、ゼビ、

三七 ガタム、ケナズ、テムナ、アマレク 三七 リウエルの子等はナハテ、ゼラ、シヤンマ、ミツザ

三八 セイルの子等はロタン、シヨバル、ヂベオン、アナ、デシヨン、エゼル、デシヤン 三九 ロタンの子等は

四〇 ホリとホمام、ロタンの妹はテムナ 四〇 シヨバルの子等はアルヤン、マナハテ、エバル、シビ、オナム、ヂベオ

四一 ンの子等はアヤとアナ 四一 アナの子等はデシヨン、デシヨンの子等はハムラム、エシバン、イテラン、ケラン、

四二 エゼルの子等はビルハン、ザワン、ヤカン、デシヤンの子等はウズおよびアラン

四三 イスラエルの子孫を治むる王いまだ有ざる前にエドムの地を治めたる王等は左のごとしベオルの子ベラ

四四 その都城の名はデナバといふ 四四 ベラ薨てボヅラのゼラの子ヨバブこれに代りて王となり 四五 ヨバブ薨てテマン

イ創二一・二二・二三 二創二五・二六・二七
ロ創一六・一七・一八 三創二一・二二・二三
ハ創二五・二六・二七 へ創二五・二六・二七
ト創三六・九・一〇 又創三六・三一
チ創三六・二〇
リ創三六・二五

ル創三六・三七 五、三五・一八、二 一二民二六・一九 レ創三八・二九、三〇 一・一八
 ナ書六・一八、七・一
 ナ得四・一九、二〇
 太一・四
 ナ書三六・四〇 二、四六・八 ヨ創三八・二 太一・三 ツ王上四・三一
 ラ得四・一九、二〇
 太一・四
 ワ創二九・三二、三〇・カ創三八・三、四六・タ創三八・七 ソ創四六・二二 得四 太一・四
 太一・四

四六 人の地のホシヤムこれにかはりて王となり 四六 ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれにかはりて王となれり彼モ

四七 アブの野にてミデアン人を撃りその都城の名はアビテといふ 四七 ハダデ薨てマスレカのサムラこれに代りて王と

四八 なり 四八 サムラ薨て河の傍なるレホボテのサウルこれに代りて王となり 四九 サウル薨てアクボルの子バアルハナ

五〇 ンこれに代りて王となり 五〇 バアルハナン薨てハダデこれにかはりて王となれりその都城の名はバイといふ

五一 その妻はマテレデの女子にして名をメヘタベルといへりマテレデはメザハブの女なり 五一 ハダデも薨たり

五二 エドムの諸侯は左のごとし、テムナ侯アルヤ侯エテテ侯 五二 アホリバマ侯エラ侯ビノン侯 五三 ケナズ侯

五四 テマン侯ミプザル侯 五四 マグデエル侯イラム侯 エドムの諸侯は是のごとし

二一 第二章 一 イスラエルの子等は左のごとしルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルン 二 ダン、

ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセル

三 ユダの子等はエル、オナン、シラなりこの三人はカナンの女バテシユアがユダによりて生たるなり ユダ

四 の長子エルはエホバの前に悪き事をなしたれば之を殺したまへり 四 ユダの媳タマルはユダによりてベレツと

ゼラとを生りユダの子等は都合五人なりき

五 ベレツの子等はヘヅロンおよびハムル 六 ゼラの子等はジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ都合五人

七 カルミの子はアカル、アカルは誼はれし物につきて罪を犯してイスラエルを惱ませし者なり 八 エタンの子は

アザリヤ

九 ヘヅロンに生れたる子等はエラメル、ラム、ケルバイ 一〇 ラム、アミナダブを生み、アミナダブ、ナシヨン

二二 を生りナシヨンはユダの子孫の牧伯なり 二二 ナシヨン、サルマを生みサルマ、ボアズを生み 二二 ボアズ、オベデ
 二三 を生み オベデ、エツサイを生り 二三 エツサイの生る者は長子はエリアブその次はアミナダブその三はシヤンマ
 二四 その四はネタンエルその五はラダイ 二五 その六はオゼムその七はダビデ 二六 かれらの姉妹はゼルヤとアビ
 二七 ガル、ゼルヤの産る子はアビシヤイ、ヨアブ、アサヘルあはせて三人 二七 アビガルはアマサを産りアマサの父は
 二八 イシマエル人エテルといふ者なり 二八
 二九 エシル、シヨバブおよびアルドン 二九 アズバ死たればカレブまたエフラタを娶れり エフラタ、カレブによりて
 三〇 ホルを産り 三〇 ホル、ウリを生みウリ、ベザレルを生り
 三一 その後ヘヅロンはギレアデの父マキルの女の所にいれりその之を娶れる時は六十歳なりき彼ヘヅロンによ
 三二 りてセグブを産り 三二 セグブ、ヤイルを生り ヤイルはギレアデの地に邑二十三を有り 三三 然るにゲシユルおよび
 三三 アラム彼等よりヤイルの邑々およびケナテとその郷里など都合六十の邑を取り是皆ギレアデの父マキルの子等を
 三四 りき 三四 ヘヅロン、カレブエフラタに死て後ヘヅロンの妻アビヤその子アシユルを生りアシユルはテコアの父なり
 三五 ヘヅロンの長子エラメルの子等は長子はラム 次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤ 二六 エラメルはまた他の
 二七 妻をもてりその名をアタラといふ彼はオナムの母なり 二七 エラメルの子等はマアツ、ヤミン、エケル
 二八 オナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等はナダブおよびアビシユル 二九 アビシユルの妻の名は
 三〇 アビハイルといふ彼アバンおよびモリデを生り 三〇 ナダブの子等はセレデおよびアツバウム、セレデは子なく

イ民一・七、二・三 二母後一七・二五 ト民二七・一
 口母前二六・六 ホ代上二・五〇 子民三二・四一 申三
 ハ母後二・一八 へ出三一・二 一四番一三・三〇
 リ代上四・五

又代上二・三四・三五
 ル代上一・四一
 ナ番一五・一七

三二 して死しほり 三三 アツパイムの子こはイシ、イシの子こはセシヤン、セシヤンの子こはアヘライ 三三 シヤンマイの兄弟あやうだいヤダ
 三三 の子こはエテルおよびヨナタン、エテルは子こなくして死しほり 三三 ヨナタンの子こ等はペレテおよびザザ、エラメルの子こ
 三四 孫そんは斯かくのごとし 三四 セシヤンは男子なんしなくして惟ただ女子によしありしのみなるがセシヤンにヤルハと名なづくるエジプトの僕しもべあ
 三五 りければ 三五 セシヤンその女むすめをこの僕しもべヤルハに與あたへて妻つまとなさしめたり彼かれヤルハによりてアツタイを生うめり 三六 ア
 三六 ツタイ、ナタンを生うめみ ナタン、ザバデを生うめみ 三七 ザバデ、エフラルを生うめみ エフラル、オベデを生うめみ 三八 オベデ、
 三九 エヒウを生うめみ エヒウ、アザリヤを生うめみ 三九 アザリヤ、ヘレヅを生うめみ ヘレヅ、エレアサを生うめみ 四〇 エレアサ、シ
 四一 スマイを生うめみ シスマイ、シヤルムを生うめみ 四一 シヤルム、エカミヤを生うめみ エカミヤ、エリシヤマを生うめり
 四二 エラメルあやうだいの兄弟あやうだいカレブの子こ等はその長子うひこをメシヤといふ是これはジフの父ちちなり ジフの子こはマレシヤ、マレシ
 四三 ヤはヘブロンちちの父ちちなり 四三 ヘブロンちちの子こ等はコラ、タツプア、レケム、シマ 四四 シマはラハムを生うめりラハムは
 四四 ヨルカムちちの父ちちなりレケムはシヤンマイを生うめり 四五 シヤンマイの子こはマオン、マオンはベテスルの父ちちなり 四六 カ
 四六 レブそはめの妾めかけエバはハラシ、モザおよびガゼズを生うめりハラシはガゼズを生うめり 四七 エダイちちの子こ等はレゲム、ヨタム、
 四七 ゲシヤン、ペレテ、エバ、シヤフ 四八 カレブそはめの妾めかけマアカはシベルちちおよびテルハナちちを生うめみ 四九 またマデマンナちちの父ちち
 四九 シヤフちちおよびマクベナちちとギベアの父ちちシワちちを生うめり カレブちちの女子むすめはアクサちちといふ
 五〇 カレブちちの子こ孫そんは左ひだりのごとしエフラタちちの長子うひこホルちちの子こはキリアテヤリムちちの父ちちシヨバル 五一 ベテレヘムちちの父ちちサ
 五一 ルマちちおよびベテカデルちちの父ちちハレフ 五二 キリアテヤリムちちの父ちちシヨバルの子こ等はハロエちちにメヌコテ人ひとの半なつかは 五三 またキ
 五二 リアテヤリムちちの宗族あやうはイテリ族びとブヒ族びとシユマ族びとミシラ族びと是等これらよりザレア族びとおよびエシタオル族びと出いたり 五四 サ
 五三 ルマちちの子こ孫そんはベテレヘム、ネトバ族びとアタロテベテヨアブ、マナハテ族びとの半なつかはおよびゾリ族びと 五五 ならびにヤベヅに

住る諸士の宗族すなはちテラテ族シメアテ族スカテ族是等はケニ人にしてレカブの家の先祖ハマテより出たる者なり

第三章

一 ヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし長子はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生れ其次はダニエルといひてカルメル人アビガルより生れ 二 その三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女マアカの生る子其四はアドニヤといひてハギテの生る子なり 三 その五はシパテヤといひてアピタルより生れ其六はイテレアムといひて妻エグラより生れ 四 この六人へブロンにてかれに生れたりダビデ彼處にて王たりし事七年と六箇月またエルサレムにて王たりし事三十三年 五 エルサレムにて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモンこの四人はアンミエルの女バテシユアより生る 六 またイブハル、エリシヤマ、エリペレテ 七 ノガ、ネベグ、ヤピア 八 エリシヤマ、エリアダ、エリペレテの九人 是みなダビデの子なり此外にまた妾等の生る子等あり彼らの姉妹にタマルといふ者あり

一〇 ソロモンの子はレハベアムその子アビヤその子アサその子ヨシヤパテ 二 その子はヨラムその子はアハジアその子はヨアシ 三 その子はアマジヤその子はアザリヤその子はヨタム 四 その子はアハズその子はヒゼキヤその子はマナセ 五 その子はアモンその子はヨシア 六 ヨシアの子等は長子はヨハナンその次はエホヤキムその三はゼデキヤその四はシャルム 七 エホヤキムの子等はその子はエコニアその子はゼデキヤ 八 俘擄人エコニアの子等はその子シャルテル 九 マルキラム、ペダヤ、セナザル、エカミア、ホシヤマ、ネダビヤ 一〇 ペダヤの子等はゼルバベルおよびシメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナニヤその姉妹に

イ士一・一六 二番一五・五六 ト母後五・五
 口耶三五・二 赤母後三・五 赤母後五・一四 代上 又母後五・一三一・一六 五・六
 ハ母後二・二 へ母後二・一一 一四・四 ル母後二・三・一 ワ太一・一一 ヨ太一・一一
 一 母後二・二・二四 一 母後二・二四・一 一 母後二・二四・一七

タ喇八・二二
レ創三八・二九、四六
ソ代上二・五〇
ツ代上二・二四
ネ創三四・一九

ナ書一五・一七

二〇 シロミテといふ者あり 二〇 またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの五人あり 二二 ハナニヤ
二三 の子等はペラテヤおよびエサヤまたレバヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シカニヤの子等あり 二三 シカ
二四 ニヤの子はシマヤ、シマヤの子等はハツトシ、イガル、バリア、ネアリア、シヤバテの六人 二三 ネアリアの子等
二四 はエリヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカム（タ）の三人 二四 エリヨエナイの子等はホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アツク
ブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人

第四章

一 ユダの子等はペレヅ、ヘヅロン、カルミ、ホル、シヨバル 二 シヨバルの子レアヤ、ヤハテを生み
三 ヤハテ、アホマイおよびラハデを生り是等はザレア人の宗族なり 三 エタム（シ）の父の生る者は左の
四 ごとしエズレル、イシマおよびイデバシその姉妹の名はハゼレルポニといふ 四 ゲドルの父ペヌエル、ホシヤの
五 父エゼル 是等はベテレヘムの父エフラタの長子ホルの子等なり 五 テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ち
六 ヘラとナアラ 六 ナアラ、アシユルによりてアホザム、ヘペル、テメニおよびアハシタリを産り是等はナアラの
七 産る子なり 七 ヘラの産る子はゼレテ、エゾアル、エテナン 八 ハツコヅはアヌブおよびゾベバを産りハルムの
九 子アハルヘル（ネ）の宗族も彼より出づ 九 ヤベヅはその兄弟の中にて最も尊ばれたる者なりきその母我くるしみて
一〇 これを産たればといひてその名をヤベヅ（ネ）と名けたり 一〇 ヤベヅ、イスラエルの神に願はり我を祝福に
祝福て我境を擴め御手をもて我を助け我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと言ひ神その求むる
二二 所を允したまふ 二二 シユワの兄弟ケルブはメヒルを生りメヒルはエシトンの父なり 二二 エシトンはベテラバ、
二三 バセアおよびイルナハシの父テヒンナを生り是等はレカの人なり 二三 ケナズの子等はオテニエルおよびセラヤ、

一四 オテニエルの子はハタテ 一四 メオノタイはオフラを生み セラヤはヨアブを生り ヨアブはカラシム(工匠)谷の人
 一五 人の父なり彼處のものは工匠なればかくいふ 一五 エフンネの子カレブの子等はイル、エラおよびナアム、エラの
 一六 子等およびケナズ 一六 エハレレルの子等はジフ、ジバ、テリア、アサレル 一七 エズラの子等はエテル、メレデ、
 一八 エペル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シヤンマイおよびイシバを産り イシバはエシテモアの父なり 一八 その
 一九 ユダヤ人なる妻はゲドルの父エレデとシヨコの父へベルとザノアの父エクテエルを産り是等はメレデが娶りたる
 一九 バロの女ビテヤの生る子なり 一九 ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ
 二〇 人エシテモアなり 二〇 シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネ
 二一 ゾヘテ 二一 ユダの子シラの子等はレカの父エル、マレシヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの
 二二 家の者等 二二 ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なり またヤシユブ レハム
 二三 といふ者ありその記録は古し 二三 是等の者は陶工にしてネタイムおよびゲデラに住み王の地に居りてその用を
 なせり
 二四 シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シヤウル 二五 シヤウルの子はシヤルム その子はミブ
 二六 サムその子はミシマ 二六 ミシマの子はハムエル その子はザツクル その子はシメイ 二七 シメイには男子十六人
 二七 女子六人ありしがその兄弟等には多の子あらざりきまたその宗族の者は凡てユダの子孫ほどには殖増ざりき
 二八 彼らの住る處はベエルシバ、モラダ、ハザルシユアル 二九 ビルハ、エゼム、トラデ 三〇 ベトエル、ホルマ、チクラグ
 三一 ベテマルカボテ、ハザルスシム、ベテビリ、シヤライム 是等の邑はダビデの世にいたるまで彼等の有たりき

イ尼一一・三五 口創三八・一、五 八書一九・二
 二王下一八・八 一七母後八・二二 一七母後八・二二 ト創三五・二二、四九 一七母後八・二二 詩 一四 民二六・五
 へ創二九・三三、四九 四 六〇・七、一〇八・八 一四 民二六・五
 ホ母則一五・八、三〇 三 三 子創四八・一五、二二 又米五・二 太二・六

三三 三三 三三 三三
その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なり 三三
またこの邑々の周圍に衆多の村

三四 ありてバアルにまでおよべり彼らの住處は是のごとくにして彼ら各々系譜あり 三四

三五 三六 三六
メシヨバブ、ヤムレク、アマ
ジヤの子ヨシヤ ヨエル、アシエル、曾孫セラヤの孫ヨシビアの子エヒウ

三七 三七
エリオエナイ、ヤコバ、エシヨ
ハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤ およびシビの子ジザ、シビはアロンの子アロンはエダヤの子

三八 三八
エダヤはシムリの子シムリはシマヤの子なり 此に名を擧げたる者等は其の宗族の中の長たる者にして

三九 三九
その宗家は更に蔓延り 彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり

四〇 四〇
つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき其は昔より其處に住たりし者は

四一 四一
ハム人なればなり 即ち上にその名を記したる者等エダの王ヒゼキヤの代に往て彼らの幕屋を撃やぶり彼らと

四二 四二
其處に住しメウニ人を盡く滅ぼし之に代りて其處に住て今日にいたる是はその群を牧べき牧場其處にあり

四三 四三
たればなり またシメオンの子孫の者五百人許イシの子等ペラテア、ネアリア、レバヤ、ウジエルを長として

四四 四四
セイル山に攻ゆき アマレキ人の逃れて遺れる者を撃ほるぼして今日まで其處に住り

第五章

一 一
イスラエルの長子ルベンの子等は左のごとしルベンは長子なりしがその父の床を浼しよによりて
その長子の權はイスラエルの子ヨセフの子等に與へらる然れども系譜は長子の權にしたがひて記す

二 二
べきに非す 三す
す 即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、バル、ヘヅロン、カルミ ヨエルの子はシマヤその子はゴヅ

三 三
その子はシメイ 四
その子はベエラこのベエラはアツスリ

四 四
その子はシメイ 五
その子はレアヤその子はバアル

五 五
その子はシメイ 六
その子はベエラこのベエラはアツスリ

- 八 に依りその歴代の系譜によれば左のごとし長エイエルおよびゼカリヤ ベラ等なりベラはアザズの子シマの孫
- 九 ヨエルの曾孫なりかれアロエルに住みて地をネボ、バアルメオンにまでおよぼし、が ギレアデの地にてその
- 一〇 家畜殖増ければまた地を東の方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでおよぼせり またサウルの時にハガリ
- 人と戦争してこれを打破りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たり
- 一一 ガドの子孫はこれと相對ひてバシヤンの地にすみて地をサルカにまで及ぼせり 長はヨエル次はシヤバ
- 一二 ム、ヤアナイ、シヤパテ共にバシヤンに居り 彼らの兄弟等はその宗家によればミカエル、メシユラム、シバ、
- 一三 ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル 都合七人 是等はホリの子アビハイルの子等なり ホリはヤロアの子ヤロアは
- 一四 ギレアデの子ギレアデはミカエルの子ミカエルはエシサイの子エシサイはヤドの子ヤドはブズの子 アヒは
- 一五 アブデルの子アブデルはグニの子グニは其宗家の長たり 彼らはギレアデとバシヤンと其郷里とシヤロンの
- 一六 諸郊地に住て地を其四方の境に及ぼせり 是等はみなユダの王ヨタムの世とイスラエルの王ヤラベアムの世に
- 系譜に載たるなり
- 一八 ルベンの子孫とガド人とマナセの半 支派には出て戦ふべき者四萬四千七百六十人あり皆勇士にして能く
- 一八 楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戦ふ者なり 彼等ハガリ人およびエトル、ネフシ、ノダブ等と戦争しけるが
- 二〇 助力をかうむりて攻撃たればハガリ人および之と借なりし者等みな彼らの手におちいれり是は彼ら陣中にて
- 神を呼びこれを頼みしによりて神これを聴いたまひしが故なり かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝
- 三 五萬 羊二十五萬 驢馬二千あり人十萬ありき またころされて倒れたる者衆しその戦争神に由るがゆゑなり

イ代上五・一七 二創二五・二二 ト王下一五・五、三三 一創二五・一五 代上 九 詩三三・四、五
 口書一三・一五、一六 亦書一三・一一、二四 王下二四・一六、二 一・三三
 ハ書二二・九 へ代上二七・二九 八 又代上五・二二

ナ王下一五・二九、一 カ王下一五・一九 代上三三・六
 七・六 ヨ王下一五・二九 レ創四六・二一 出六 ソ代上六・二二 未母後八・二七
 ワ王下一七・七 タ王下一七・六、一八・一六 民二六・五七 ツ利一〇・一 ナ母後一五・二七 ム代下二六・二七、一 井尼二・二一
 ラ王上六・代下三・ウ喇七・三

而して彼らはこれが地に代りて住その擧移さるゝ時におよべり

二三 マナセの半支派の人々はこの地に住み殖蔓りてつひにバシヤンよりバアルヘルモン、セニルおよびヘル
 二四 モン山まで地をおよぼせり

二五 ホダヤ、ヤデエル是みなその宗家の長にして名ある大勇士なりき

二六 彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し曾て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひてこれと

二七 姦淫したれば イスラエルの神アツスリヤの王ブルの心を振興しまたアツスリヤの王テグラテビレセルの心を

二八 振興したまへり彼つひにルベン人とガド人とマナセの半支派とを擧へゆきこれをハウラとハボルとハラとゴザ

二九 ンの河の邊とに移せり彼等は今日まで其處にあり

第六章

一 レビの子等はゲルシオン、コハテ、メラリ
 二 コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、
 三 ウジエル
 四 アムラムの子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等はナダブ、アビウ、エレ

五 アザル、イタマル
 六 エレアザル、ビネハスを生み
 七 アビシユアを生み
 八 アビシユア、ブツキを生

九 みブツキ、ウジを生み
 一〇 ウジ、ゼラヒヤを生み
 一一 ゼラヒヤ、メラヨテを生み
 一二 メラヨテ、アマリヤを生み

一三 アマリヤ、アヒトブを生み
 一四 アヒトブ、ザドクを生み
 一五 アヒマアズを生み
 一六 アザリヤを

一七 生み
 一八 アザリヤ、ヨハナンを生み
 一九 ヨハナン、アザリヤを生り此アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮

二〇 にて祭司の職をなせし者なり
 二一 アザリヤ、アマリヤを生み
 二二 アマリヤ、アヒトブを生み
 二三 アヒトブ、ザドクを

二四 生み
 二五 ザドク、シヤルムを生み
 二六 シヤルム、ヒルキヤを生み
 二七 ヒルキヤ、アザリヤを生み
 二八 アザリヤ、セラヤを

一五 生みセラヤ、ヨザダクを生む。ヨザダクはエホバ、ネブカデネザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を
 擄へうつしたまひし時に擄へられて往り

一六 レビの子等はゲルシヨン、コハテおよびメラリ。ゲルシヨンの子等の名は左のごとしリブニおよびシメ

一八 イ コハテの子等はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル。メラリの子等はマヘリおよびムシ、レビ人

二〇 の宗族はその宗家によれば是のごとし。ゲルシヨンの子はリブニ。その子はヤハテ。その子はジンマ。その子

二二 はヨア。その子はイド。その子はゼラ。その子はヤテライ。コハテの子はアミナダブ。その子はコラ。その子はアシ

二四 ル。その子はエルカナ。その子はエビアサフ。その子はアシル。その子はタハテ。その子はウリエル。その子は

二六 ウジヤ。その子はシャウル。エルカナの子等はアマサイおよびアヒモテ。エルカナについてはエルカナの子は

二七 ゾバイ。その子はナハテ。その子はエリアブ。その子はエロハム。その子はエルカナ。サムエルの子等は長子

二九 はヨエル。次はアビヤ。メラリの子はマヘリ。その子はリブニ。その子はシメイ。その子はウザ。その子はシメ

三〇 ア。その子はハギヤ。その子はアサヤなり。

三一 契約の櫃を安置せし後ダビデ左の人々を立てエホバの家にて謳歌事を司どらせたり。彼等は集會の幕屋

の住所の前にて謳歌事をおこなひ來りしがソロモン、エルサレムにエホバの室を建るにおよびその次序に循ひて

三三 その職をつとめたり。立て奉事をなせるものおよびその子等は左のごとしコハテの子等の中へマンは謳歌師長

三四 たりへマンはヨエルの子ヨエルはサムエルの子。サムエルはエルカナの子。エルカナはエロハムの子。エロハム

三五 はエリエルの子。エリエルはトアの子。トアはヅフの子。ヅフはエルカナの子。エルカナはマハテの子。マハテは

イ王下二五・一八 二代上六・三五・三六 ト代上二六・一
 出六・一六 ホ代上六・三四
 八代上六・四二 へ代上六・三四
 又利一・九
 ル出三〇・七
 ヲ書二一・一一、一二
 カ書一四・一三、一五
 一三
 子出六・二四
 リ代上六・二二
 テ書二一・

三六 アマサイの子三六 アマサイはエルカナの子エルカナはヨエルの子ヨエルはアザリヤの子アザリヤはゼバニヤの
 三七 子三七 ゼバニヤはタハテの子タハテはアシルの子アシルはエピアサフの子エピアサフはコラの子三八 コラは
 三九 イヅハルの子イヅハルはコハテの子コハテはレビの子レビはイスラエルの子なり三九 ヘマンの兄弟アサフ、
 四〇 ヘマンの右右に立たてりアサフはベレキヤの子ベレキヤはシメアの子四〇 シメアはミカエルの子ミカエルはバアセ
 四一 ヤの子バアセヤはマルキヤの子四一 マルキヤはエテニの子エテニはゼラの子ゼラはアダヤの子四二 アダヤは
 四二 エタンの子エタンはジンマの子ジンマはシメイの子四三 シメイはヤハテの子ヤハテはゲルシヨンの子
 四四 ゲルシヨンはレビの子なり四四 また彼らの兄弟なるメラリ人等その左左に立たてり其中のエタンはキシの子なり
 四五 キシはアブデの子アブデはマルクの子四五 マルクはハシヤビヤの子ハシヤビヤはアマジヤの子アマジヤは
 四六 ヒルキヤの子四六 ヒルキヤはアムジの子アムジはバニの子バニはセメルの子四七 セメルはマヘリの子マヘリ
 四八 はムシの子ムシはメラリの子メラリはレビの子なり四八 彼らの兄弟なるレビ人等は神の室の幕屋の諸の職に
 任にんぜられたり

四九 アロンおよびその子等は燔祭の壇壇と香壇香壇の上に物を獻さぐることを司つかさどりまた至聖所の諸の工をなし且
 五〇 イスラエルのために贖あがなひをなすことを司つかさどり凡て神の僕モーセの命じたるごとし五〇 アロンの子孫は左のごとし
 五一 アロンの子はエレアザルその子はピネハスその子はアビシユア五一 その子はブツキその子はウジその子は
 五二 ゼラヒヤ五二 その子はメラヨテその子はアマリヤその子はアヒトブ五三 その子はザドクその子はアヒマアズ
 五四 アロンの子孫の住處は四方の境の内にありその閭里に循したがひていはゞ左の如し先コハテ人の宗族が籤により
 五五 て得えたるところは是なり五五 すなはちユダの地の中よりはヘブロンとその周圍の郊地を得たり五六 但しその邑の
 五六

五七 田野と村々はエフンネの子カレブに歸せり 五七 すなはちアロンの子孫の得たる邑は逃遁邑なるへブロン、リブナ

五八 とその郊地 ヤツテルおよびエシテモアとそれらの郊地 五八 ホロンとその郊地 デビルとその郊地 五九 アシヤンと

六〇 その郊地 ベテシメシとその郊地なり 六〇 またベニヤミンの支派の中よりはゲバとその郊地 アレメテとその郊地

六一 アナトテとその郊地を得たり 彼らの邑はその宗族の中に都合十三ありき

六二 またコハテの子孫の支派の中此他なる者はかの半支派の中即ちマナセの半支派の中より籤によりて十

の邑を得たり 六二 またゲルシヨンの子孫の宗族はイツサカル六三の支派アセルの支派ナフタリの支派及びバシヤン

なるマナセの支派の中より十三の邑を得たり 六三 またメラリの子孫の宗族はルベンの支派ガドの支派およびゼブ

六四 ルンの支派の中より籤によりて十二の邑を得たり 六四 イスラエルの子孫は邑とその郊地とをレビ人に與へたり

六五 即ちユダの子孫の支派とシメオンの子孫の支派とベニヤミンの子孫の支派の中よりして此に名を擧たる是等

の邑を籤によりて之に與へたり 六六 コハテの子孫の宗族はまたエフライムの支派の中よりも邑を得てその領地となせり 六七 即ちその得たる

六八 逃遁邑はエフライム山のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地 六八 ヨクメアムとその郊地 六九 ベテホロンとその郊地

六九 郊地 六九 アヤロンとその郊地 ガテリンモンとその郊地なり 七〇 またマナセの半支派の中よりはアネルとその郊地

七〇 ビレアムとその郊地 七一 是みなコハテの子孫の遺れる宗族に歸せり

七一 ゲルシヨンの子孫に歸せし者はマナセの半支派の宗族の中よりはバシヤンのゴランとその郊地 七二 アシタ

七二 ロテとその郊地 七三 イツサカル七三の支派の中よりはゲデシとその郊地 七三 ダベラテとその郊地 七三 ラモテとその郊地

イ番二一・一三 二番二一・七三四 ト番二一・二二—三五
口代上六・六六 水代上六・六一 子創四六・一三 民
ハ番二一・五 へ番二一・二一 二六・二三
リ母後二四・一二代 上三七・一 三八代上八・一
又創四六・二一 民二六

七四 アネムとその郊地 七四 アセルの支派の中よりはミシアルとその郊地 アブドンとその郊地 ホコクとその郊地

七五 レホブとその郊地 七六 ナフタリの支派の中よりはガリラヤのゲデシとその郊地 ハンモンとその郊地 キリアタイ

ムとその郊地 七七 此外の者すなはちメラリの子孫に歸せし者はゼブルンの支派の中よりはリンモンとその郊地 タボルとそ

七八 の郊地 エリコに對するヨルダンの彼旁すなはちヨルダンの東においてルベンの支派の中よりは曠野のベゼル

七九 とその郊地 ヤザとその郊地 ケデモテとその郊地 メバアテとその郊地 ガドの支派の中よりはギレアデの

八〇 ラモテとその郊地 マハナイムとその郊地 ヘシボンとその郊地 ヤゼルとその郊地

八一

第七章

一 イツサカルの子等はトラ、ブワ、ヤシユブ、シムロムの四人 二 トラの子等はウジ、レバヤ、エ

リエル、ヤマイ、エブサム、サムエル 是みなトラの子にして宗家の長なり其子孫の大勇士たる者

三 はダビデの世にはその數二萬二千六百人なりき 四 ウジの子はイスラヒヤ、イスラヒヤの子等はミカエル、オバ

四 デヤ、ヨエル、イツシヤの五人是みな長たる者なりき 五 その宗家によればその子孫の中に軍旅の士卒三萬六千

五 人ありき是は彼等妻子を衆く有たればなり 六 イツサカルの諸の宗族の中なるその兄弟等すなはち名簿に記載た

る大勇士は都合八萬七千人 七 ベラの子等はエツボン、ウジ、ウジエル、エレ

八 モテ、イリの五人皆その宗家の長なりその名簿に記載たる大勇士は二萬二千三十四人 九 ベケルの子等はセミラ、

ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エレモテ、アビヤ、アナトテ、アラメテ 是みなベケルの子等にし

一〇 て宗家の長なり 九 その子孫の中名簿に記載たる大勇士は二萬二百人なりき 一〇 またエデアエルの子はビルハ

二一 ン、ビルハンの子等はエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、アビシヤハル 是みなエ
 二二 デアエルの子にして宗家の長たりきその子孫の中に能く陣にのぞみて戦ふ大勇士一萬七千二百人ありき また
 二三 イリの子等はシユバムおよびホバム、またアヘラの子はホシム
 二四 ナフタリの子等はヤジエル、グニ、エゼル、シヤルム是みなビルハの産る子なり
 二五 マナセの子等はその妻の産る者はアシリエルその妾なるスリアの女の産る者はギレアデの父マキル
 二六 キルはホバムとシユバムの妹名はマアカといふ者を妻に娶れりその次の者はゼロペハデといふゼロペハデには
 二七 女子ありしのみ マキルの妻マアカ男子を産てその名をペレシとよべりその弟の名はシヤレシ、シヤレシの子
 二八 等はウラムおよびラケム ウラムの子はベダン是等はマナセの子マキルの子なるギレアデの子等なり
 二九 妹ハンモレケテはイシホデ、アビエゼル、マヘラを産り セミダの子等はアヒアン、シケム、リキ、アニヤム
 三〇 エフライムの子はシユテラその子はベレデその子はタハテその子はエラダその子はタハテ その子
 三一 はザバデその子はシユテラ、エゼルとエレアデはガテの土人等これを殺せり其は彼ら下りゆきてこれが家畜を
 三二 奪はんとしたればなり その父エフライムこれがために哀むこと日久しかりければその兄弟等きたりてこれを
 三三 慰さめたり かくて後エフライムその妻の所にいりけるに胎みて男子を生たればその名をベリア(災難)となづ
 三四 けたりその家に災難ありたればなり エフライムの女子セラは上下のベテホロンおよびウゼンセラを建たり
 三五 ベリアの子はレバおよびレセフその子はテラその子はタハン その子はラダンその子はアミホデその
 三六 子はエリシヤマ その子はヌンその子はヨシユア

イ民二六・三九
口創四六・二四
ハ母前一一・二一

二民二六・三〇
ホ民二六・三五

へ番一六・七七
ト番一七・七七

チ番一七・一一
リ創四六・一七
二六・四四

又代上七・三四
ル代上七・三三
ヲ創四六・二二 民二六

三八代上七・六
ワ代上三・五四

二八 エフライムの子孫の産業と住處はベテルとその郷里 また東の方にてはナアラン 西の方にてはゲゼルと
二九 その郷里 またシケムとその郷里 およびアワとその郷里 またマナセの子孫の國境に沿てはベテシヤンと
その郷里 タアナクとその郷里 メギドンとその郷里 ドルとその郷里 なり イスラエルの子ヨセフの子孫は是等の
處に住る

三〇 アセルの子等はイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姊妹セラ ベリアの子等はへベルおよび
マルキエル、マルキエルはビルザヒテの父なり へベルはヤフレテ、シヨメル、ホタムおよびその姊妹シユワ
を生り ヤフレテの子等はバサク、ビムハル、アシワテ、ヤフレテの子等は是のごとし シヨメルの子等は
アヒ、ロガ、ホバおよびアラム シヨメルの兄弟へレムの子等はゾバ、イムナ、シレシ、アマル ゾバの
子等はスア、ハルネベル、シユアル、ベリ、イムラ ベゼル、ホド、シヤンマ、シルシヤ、イテラン、ペエラ
エテルの子等はエフンネ、ビスバおよびアラ ウラの子等はアラ、ハニエルおよびリヂア 是みなアセ
ルの子孫にして宗家の長たり挺出たる大勇士たり 將官の長たりきその名簿に記載たる能く陣にのぞみて戦ふ者
二萬六千人あり

第八章

一 ベニヤミンの生る者は長子はベラ その次はアシベル その三はアハラ その四はノハ その五は
ラバ ベラの子等はアダル、ゲラ、アビウデ アビシユア、ナアマン、アホア ゲラ、シフバ
ム、ヒラム エホデの子等は左のごとし是等はゲバの民の宗家の長なり是はマナハテに移されたり すなは
ちナアマンおよびアヒヤとともにゲラこれに移せるなり エホデの子等はすなはちウザとアヒウデ是なり シヤ
ハラームはその妻ホシムとバアラを去し後モアブの國においてまた子等を擧げたり 彼がその妻ホデシにより

一〇 て擧げたる子等はヨバブ、ヂビア、メシヤ、マルカム 一〇 エウツ、シヤキヤおよびミルマはその子等にして宗家
二一 の長なり 二二 彼またホシムによりてアビトブとエルパアルを擧げたり 二三 エルパアルの子等はエベル、ミシヤム
二四 およびシヤメル 彼はオノとロドとその郷里を建たる者なり 二五 またベリア、シマあり是等はアヤロンの民の宗家
二六 の長たる者にしてガテの民を逐はらへり 二七 またアヒオ、シヤシヤク、エレモテ 二八 ゼバデヤ、アラデ、アデル
二九 ミカエル、イシバ、ヨハ 是等はベリアの子等なり 三〇 ゼバデヤ、メシユラム、ヘゼキ、ヘベル 三一 イシメ
三一 ライ、エズリア、ヨバブ 是等はエルパアルの子等なり 三二 ヤキン、ジクリ、ザベデ 三三 エリエナイ、チルタイ、
三三 エリエル 三三 アダヤ、ペラヤ、シムラテ 是等はシマの子等なり 三三 イシバン、ヘベル、エリエル 三三 アブドン、
三四 ジクリ、ハナン 三四 ハナニヤ、エラム、アントテヤ 三五 イベデヤ、ベヌエル 是等はシヤシヤクの子等なり 三六 シ
三五 ヤムセライ、シハリア、アタリヤ 三七 ヤレシヤ、エリヤ、ジクリ 是等はエロハムの子等なり 三九 是等は歴代の
四〇 宗家の長にして首たるものなり是らはエルサレムに住たり 四〇 其の長子はアブドン、次はツル、キシ、バ
四一 ギベオンの祖はギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 四二 その長子はアブドン、次はツル、キシ、バ
四二 アル、ナダブ 四三 ゲドル、アヒオ、ザケル 四四 ミクロテはシメアを生り是等も又その兄弟等とともにエルサレム
四四 に住てこれに對ひ居り 四四 ネル、キシを生みキシ、サウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アピナダブ、
四五 エシバアルを生り 四四 ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 四五 ミカの子等はピトン、メレク、
四六 タレア、アハズ 四六 アハズはエホアダを生みエホアダはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生みジムリはモザ
四七 を生み 四七 モザはビネアを生りその子はラバ 四八 その子はエレアサその子はアゼル 四九 アゼルには六人の子あり
四八

イ代上八・二二
口代上九・三五
八傳前一四・五一

二母前一四・四九
ホ三後九・二二
へ代上九・四二

ト代上九・四三

チ喇二・五九
リ喇二・七〇

尼七・

七三
又書九・二七
四三・八・二〇

ル尼二・一
ナ尼二・一〇

其名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン是みなアゼルの子なり
三九
四〇
その兄弟エセクの子等の長子はウラムその次はエウンその三はエリペレテ
四〇
ウラムの子等は
大勇士にして
善く弓を射る者なり
き彼は孫子多くして百五十人もあり
き是みなベニヤミンの子孫なり

第九章

一 イスラエルの人は皆名簿に記載られたり
視よ是は皆イスラエルの列王紀に録さるユダはその罪の
二 ためにバビロンに擄へられてゆけり
三 その産業の邑々に最初に住ひし者はイスラエル人祭司等

三 レビ人およびネテニ人等なり
またエルサレムにはユダの子孫ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの

四 子孫等住り
即ちユダの子ベレヅの子孫の中にはアミホデの子ウタイ、アミホデはオムリの子オムリは

五 イムリの子イムリはバニの子なり
シロ族の中にはシロの長子アサヤおよびその他の子等
六 ゼラの子孫の

七 中にてはユエルおよびその兄弟六百九十人
ベニヤミンの子孫の中にはハセヌアの子ハダヤの子なるメシユ

八 ラムの子サル
エロハムの子イブニヤ、ミクリの子なるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子なる

九 シバテヤの子メシユラム
並に彼らの兄弟等その世系によれば合せて九百五十六人
是みなその宗家の長たる
人々なり

一〇 また祭司の中にてはエダヤ、ヨアリブ、ヤキン
およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラム

一一 の子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子
メラヨテはアヒトブの子なり
アザリヤは神の室の宰たり

一二 またエロハムの子アダヤ、エロハムはバシユルの子
バシユルはマルキヤの子なり
またアデエルの子マアセヤ、

一三 アデエルはヤゼラの子
ヤゼラはメシユラムの子
メシユラムはメシレモテの子
メシレモテはインメルの子なり

一四 また彼らの兄弟等
是等は宗家の長たる者にして合せて一千七百六十人あり
皆神の室の奉事をなすの力ある

ものなり

二四 レビ人の中にてはハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子是は

二五 メラリの子孫なり 一五 またバクバツカル、ヘレシ、ガラルおよびアサフの子ジクリの子なるミカの子マツタニヤ

二六 ならびにエドトンの子ガラルの子なるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子なるアサの子ベレキヤ、エル

カナはネトバ人の郷里に住たる者なり

二七 門を守る者はシャルム、アツクブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟等にしてシヤレムその長たり

二八 彼は今日まで東の方なる王の門を守りをる是等はレビの子孫の營の門を守る者なり 一九 コラの子エビアサフ

の子なるコレの子シヤルムおよびその父の家の兄弟等などのコラ人は幕屋の門々を守る職務を主どれりその先祖

二〇 等はエホバの營の傍にありてその入口を守れり 二〇 エレアザルの子ピネハス昔彼らの主宰たりきエホバ彼と

二二 ともに在せり 二二 メシレミヤの子ゼカリヤは集會の幕屋の門を守る者なりき 二三 是みな選ばれて門を守る者にて

合せて二百十二人ありき皆その村々の名簿に記載たる者なりしがダビデと先見者サムエルこれをその職に任じ

二四 たり 二三 彼等とその子孫は順番にエホバの室すなはち幕屋の門を司どれり 二四 門を守る者は西東北南の四方に

二五 居り 二五 またその村々に居る兄弟等は七日ごとに迭り來りて彼らを助けたり 二六 門を守る者の長たるこの四人の

二七 レビ人はその職にをりて神の室の諸の室と府庫とを司どれり 二七 彼らは番守をなす身なるに因て神の室の四周に

舍れり而して朝ごとにこれを開くことをせり

二八 その中に奉事の器皿を司どる者あり是はその數を按べて携へいりその數を按べて携へいだすべき者なり

イ民三一・六
口代上二六・一二
ハ母前九・九

二五下二・五

ホ出三〇・二三
へ利二・五、六・二

ト利二四・八
チ代上六・三一、二五

リ代上八・二九
又代上八・三三
ル代上八・三五

テ母前三一・一二

二九 またその他の器皿すなはち聖所の一切の器皿および麥粉酒油乳香香料を司どる者あり 三〇 また祭司の徒の中に香料をもて香膏を製る者あり 三一 コラ人シャルムの長子なるマツタテヤといふレビ人は鍋にて製るところの物を司どれり 三二 またコハテ人の子孫たるその兄弟等の中に供前のパンを司どりて安息日ごとにこれを調ふる者等あり

三三 レビ人の宗家の長たる是等の者は謳歌師にして殿の諸の室に居て他の職を爲ざりき其は日夜その職務にかゝりをればなり 三四 是等はレビ人の歴代の宗家の長にして首長たる者なり是等はエルサレムに住り

三五 ギベオンの祖エヒエルはギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 三六 その長子はアブドン次はツル、キシ、バアル、ネル、ナダブ 三七 ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテ 三八 ミクロテ、シメアムを生り彼等もその兄弟等とともにエルサレムに住てその兄弟等と相對ひ居り 三九 ネルはキシを生み キシはサウルを生み サウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダブおよびエシバアルを生り 四〇 ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 四一 ミカの子等はピトン、メレク、タレアおよびアハズ 四二 アハズはヤラを生み ヤラはアレメテ、

四三 アズマウテおよびジムリを生みジムリはモザを生み 四四 モザはビネアを生りビネアの子はレバヤその子はエレアサその子はアゼル 四五 アゼルは六人の子ありきその名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン 是等はアゼルの子なり

第一〇章

一 茲にペリシテ人イスラエルと戦ひけるがイスラエルの人々はペリシテ人の前より逃げギルボア山に殺されて倒れたり 二 ペリシテ人はサウルとその子等を追撃しかしてペリシテ人サウルの子ヨナタン、アビナダブおよびマルキシユアを殺せり 三 斯その戦鬪烈しうしてサウルにおし迫り射手の者等つひに

四 サウルに追つきければサウルは射手の者等のために惱めり 四 サウル是におひてその武器を執る者に言けるは汝の劍をぬき其をもて我を刺せ恐らくはこの割禮なき者等きたりて我を辱しめんと然るにその武器を執る者痛く

五 おそれて肯はざりければサウルすなはちその劍をとりてその上に伏たり 五 武器を執る者サウルの死たるを見て

六 己もまた劍の上に伏て死り 六 斯サウルとその三人の子等およびその家族みな共に死り

七 谷に居るイスラエルの人々みな彼らの逃るを見またサウルとその子等の死るを見てその邑々を棄て逃けれ

八 ばペリシテ人來りてその中に住り 八 明る日ペリシテ人殺されたる者を剝んとて來りサウルとその子等のギルボ

九 ア山にたふれをるを見 九 すなはちサウルを剝てその首とその鎧甲を取りペリシテの國の四方に人を遣はしてこ

一〇 の事をその偶像と民に告しめ 一〇 しかしてかれが鎧甲をその神の室に藏め彼が首をダゴンの宮に釘けたり 一〇 茲

一一 にペリシテ人がサウルになしたる事ごとくヤベシギレアデ中に聞えければ 一一 勇士等みな起りサウルの體と

一二 その子等の體とを奪ひ取てこれをヤベシに持きたりヤベシの橡樹の下にその骨を葬りて七日のあひだ斷食せり

一三 斯サウルはエホバにむかひて犯せし罪のために死たり即ち彼はエホバの言を守らずまた憑鬼者に問ことを

一四 爲して 一四 エホバに問ことをせざりしなり是をもてエホバかれを殺しその國を移してエツサイの子ダビデに與へ

たまへり

第一章

一 茲にイスラエルの人みなヘブロンに集まりてダビデの許に詣り言けるは我らは汝の骨肉なり

二 前にサウルが王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりき又なんぢの神エホバ汝に

三 むかひて汝はわが民イスラエルを牧養ふ者となり我民イスラエルの君とならんと言たまへりと 三 斯イスラエル

イ母前三一・一〇、ハ母前二八・七、ニ母前一五・二八、母、ホ母後五・一、ト母後五・三、チ母前一六・二、二二、又士一・二二、一九、ヲ母前一六・二、二二、カ代上一四・九

の長老みなへブロンにきたりて王の許にいたりければダビデ、へブロンにてエホバの前に彼らと契約をたてたり
 彼らすなはちダビデに膏をそゝぎてイスラエルの王となしサムエルによりて傳はりしエホバの言のごとくせり
 かくてダビデはイスラエルの人々を率ゐてエルサレムに往りエルサレムは即ちエブスなりその國の土人
 エブス人其處に居り 是においてエブスの民ダビデに言けるは汝は此に入べからずと然るにダビデはシオンの
 城を取り是すなはちダビデの邑なり この時ダビデいひけるは誰にもあれ第一にエブス人を撃やぶる者を首と
 なし將となさんと斯てゼルヤの子ヨアブ先登して首となれり 七 ダビデその城に住たればこれをダビデの邑と稱
 へたり 八 ダビデまたその邑の四方すなはちミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり邑の中のその餘の處はヨア
 ブこれを修理へり 九 斯てダビデはますます大になりゆけり萬軍のエホバこれとともに在したればなり
 一〇 ダビデが有る勇士の重なる者は左のごとし是等はイスラエルの一切の人とともにダビデに力をそへて國を
 得させ終にこれを王となしてエホバがイスラエルにつきて宣ひし言を果せり 一一 ダビデの有る勇士の數は是のご
 とし第一は三十人の長たるハクモ二人の子ヤシヨベアム彼は槍を揮ひて一時に三百人を衝殺せし事あり 一二 彼の
 次はアホア人ドドの子エレアザルにして三勇士の中なり 一三 彼ダビデとともにパスダミムに在けるにペリシテ人
 其處に集りきて戦へり其處に大麥の滿たる地一箇所あり時に民ペリシテ人の前より逃たりしが 一四 彼その地所の
 中に踐とゞまり之を護りてペリシテ人を殺せり而してエホバ大なる拯救をほどこして之を救ひたまへり
 一五 三十人の長なる三人の者アドラムの洞穴に下り磐の處に往てダビデに詣りし事あり時にペリシテ人の軍兵
 一六 はレバイムの谷に陣どれり 一七 その時ダビデは砦に居りペリシテ人の鎮臺兵はベテレヘムにありけるが 一八
 一八 デ慕ひ望みて言けるは誰かベテレヘムの門にある井の水を持來りて我に飲せよかし 一九 この三人すなはちペリシ

テ人の軍兵の中を衝とほりてベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へきたれり然どダビデこれを飲ことをせず之をエホバの前に灌ぎて 言けるは我神よ我決してこれを爲じ我いかで命をかけし此三人の血を飲べけんやと彼らその命をかけて之を携へきたりたればなり故にダビデこれを飲ことを爲ざりき此三勇士は是らの事を爲り

二〇 ヨアブの兄弟アビシヤイは三人の長たり彼は槍を揮ひて三百人を衝ころし三人の中に名を得たり 彼は第二の三人の中にて尤も貴くしてその首にせらる然ど第一の三人には及ばざりき

二三 エホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり衆多の功績ありし者なり彼はモアブのアリエルの二人の子を撃殺せりまた雪の日に下りゆきて穴の中にて獅子一匹を撃殺せし事ありき 彼はまた長身五キユビト程なるエジプト人を殺せりそのエジプト人は機織の膝のごとき槍を手に執りしに彼は杖をとりて之が許に下りゆきエジ

二四 ブト人の手よりその槍を搦とりてその槍をもて之を殺せり エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三勇士の中に名を得たり 彼は三十人の中にて尊かりしかども第一の三人には及ばざりきダビデかれを親兵の長となせり

二六 軍兵の中の勇士はヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン、ハロデ人シヤンマ、ペロ

二八 二人ヘレヅ、テコア人イツケシの子イラ、アナトテ人アビエゼル、ホシヤ人シベカイ、アホア人イライ

三〇 ネットバ人マハライ、ネットバ人バナアの子ヘレデ、ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタ

三二 イ、ピラトン人ベナヤ、ガアシの谷のホライ、アルバテ人アビエル、バハルム人アズマウテ、シヤルボ二人

三四 エリヤバ、ギゾ二人ハセム、ハラリ人シヤゲの子ヨナタン、ハラリ人サカルの子アヒアム、ウルの子エリバ

イ母後二三・一八
ロ母後二三・一九
ハ母後二三・二〇

ニ母後二三・二四

ホ母前二七・六
ヘ母前二七・二

ト士二〇・一六
チ母後三・一八

三六 ル、メケラ人へベル、ペロニ人アヒヤ、カルメル人へヅライ、エズバイの子ナアライ、ナタンの兄弟ヨエ
 三七 ル、ハグリの子ミブハル、アンモニ人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者なるベエロテ人ナハラ
 三八 エテリ人イラ、エテリ人ガレブ、ヘテ人ウリヤ、アヘライの子ザバデ、ルベン人シザの子アデナ是は
 三九 ルベン人の軍長の一人にして従者三十人を率ゐたり、マアカの子ハナン、ミテニ人ヨシヤバテ、アシテラ人
 四〇 ウジヤ、アロエル人ホタンの子等シヤマとエイエル、デジ人シムリの子エデアエルおよびその兄弟ヨハ
 四一 ハウ人エリエル、エルナアムの子等エリバイおよびヨシヤワヤ、モアブ人イテマ、エリエル、オベデ、メゾバ
 四二 人ヤシエル

第一章

一 ダビデがキシの子サウルの故によりて尙チクラグに閉こもり居ける時に彼處にゆきてダビデに就
 二 しては左のごとしその人々は勇士の中にしてダビデを助けて戦ひたる者、能く弓を彎き右左の手
 三 を用ゐて善く石を投げ、弓矢を發つ者なりしが俱にベニヤミン人にしてサウルの宗族たり、首はアヒエゼル次は
 四 ヨアシ、是らはギベア人シマアの子等なり、又エジエルおよびペレテ、是らはアズマウラの子等なり、又ベラカおよび
 五 アナトテ人エヒウ、またギベオン人イシマヤ、彼は三十人の中の勇士にして三十人の首たり、又エレミヤ、ヤハジ
 六 エル、ヨハナン、ゲデラ人ヨザバデ、エルザイ、エリモテ、ベアリヤ、シマリヤ、ハリフ人シバテヤ、エル
 七 カナ、エシヤ、アザリエル、ヨエゼル、ヤシヨベアム、是等はコラ人なり、またゲドルのエロハムの子等なる
 八 ヨエラおよびゼバデヤ
 九 ガド人の中より曠野の砦に脱きたりてダビデに歸せし者あり、是みな大勇士にして善戦かふ軍人能く楯と戈
 とをつかふ者にてその面は獅子の面のごとく、その捷きことは山にをる鹿のごとくなりき、その首はエゼル、その

二〇 二はオバデヤその三はエリアブ 一〇 其の四はミシマンナその五はエレミヤ 二 其の六はアツタイその七はエリ

二一 エル 二二 其の八はヨハナン其の九はエルザバデ 二三 其の十はエレミヤ其の十一はマクバナイ 一四 是等はガドの

二四 人々にして軍旅の長たり其の最も小き者は百人に當り其の最も大なる者は千人に當れり 一五 正 月ヨルダン其の

二五 全岸に溢れたる時に是らの者濟りゆきて谷々に居る者をことごとく東西に打奔らせたり 一六 茲にベニヤミンとユダの子孫の中の人々砦に來りてダビデに就きけるに 一七 ダビデこれを出むかへ應へて

二六 之に言けるは汝ら厚 志をもて我を助けんとて來れるならば我心なんぢらと相結ばん然ど汝らもし我手に惡き

二七 こと有ざるに我を欺きて敵に付さんとせば我らの先祖の神ねがはくは之を監みて責たまへと 一八 時に聖靈三十人

二八 の長アマサイに臨みて彼すなはち言けるはダビデよ我らは汝に屬すエツサイの子よ我らは汝を助けん願くは平安

二九 あれ汝にも平安あれ汝を助くる者にも平安あれ汝の神汝を助けたまふなりと是においてダビデ彼らを接いれて

三〇 軍旅の長となせり 一九 前にダビデ、ペリシテ人とともにサウルと戰はんとて攻きたれる時マナセ人數人ダビデに屬り但しダビデ

三一 等は遂にペリシテ人を助けざりき其はペリシテ人の君等あひ謀り彼は我らの首級をもてその主君サウルに歸らん

三二 と言て彼を去しめたればなり 二〇 斯てダビデ、チクラグに往る時マナセ人アデナ、ヨザバデ、エデアエル、ミカ

三三 エル、ヨザバデ、エリウ、デルタイこれに歸せり皆マナセ人の千人の長たる者なりき 二一 彼等ダビデを助けて

三四 敵軍に當れり彼らは皆大勇士にして軍旅の長となれり 二二 當時ダビデに歸して之を助くる者日々に加はりて終に

三五 大軍となり神の軍旅のごとくなれり 二三

イ書三一・一五 二母前二九・四 二母後二・三、四、五 一母後二・一、二、三、四、五、六、七、八、九
ロ母後一七・二五 一母前三〇・一、九、一〇 一母後二・三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇
ハ母前二九・二 一母後二・三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

三三 戦争のために身をよるひへブロンに來りてダビデに就きエホバの言のごとくサウルの國をダビデに歸せし
 三四 めんとしたる武士の數は左のごとし ユダの子孫にして楯と戈とを執り戦争のために身をよる者は六千八
 三五 百人 シメオンの子孫にして善戦かふ大勇士は七千一百人 レビの子孫たる者は四千六百人 エホヤダ、
 三六 アロン人を率ゐたり之に屬する者は三千七百人 またザドクといふ年若き勇士ありきその宗家の長たる者二十
 三七 二人ありたり サウルの宗族ベニヤミンの子孫たる者は三千人は多くサウルの家に向も忠義を
 三八 盡しゐたればなり エフライムの子孫たる者は二萬八千人皆大勇士にしてその宗家の名ある人々たり マナ
 三九 セの半支派の者は一萬八千人皆名を録されたる者なるが來りてダビデを王にたてんとす イツサカルの子孫
 四〇 たる者の中より善く時勢に通じイスラエルの爲べきことを知る者きたれりその首二百人ありその兄弟等は皆これ
 四一 が指揮にしたがへり ゼブルンの者は五萬人皆よく身をよるひ各種の武器をもて善く戦鬪をなし一心に行伍を
 四二 守る者なりき ナフタリの者は將たる者千人楯と戈とを執てこれに従ふ者三萬七千人 ダン人は二萬八千六
 四三 百人にして皆そなへを守る者なりき アセルの者は四萬人にして皆よく陣にのぞみ且行伍を守る者なりき
 四四 またヨルダンの彼旁なるルベン人とガド人とマナセの半支派の者は十二萬人みな各種の武器を執て戦争に
 四五 いづるに勝る者なりき
 四六 是等の行伍を守る軍人等眞實の心を懷きてへブロンに來りダビデをもてイスラエル全國の王となさんとせ
 四七 り其餘のイスラエル人もまた心を一にしてダビデを王となさんとせり 彼ら彼處に三日をりてダビデとともに
 四八 食ひかつ飲り其はその兄弟等これがために備をなしたればなり また近處の者よりイツサカル、ゼブルンお
 四九 よびナフタリの者に至るまでパンと麥粉の食物と乾無花果と乾葡萄と酒と油等を驢馬駱駝牛馬に載きたりかつ牛

羊を多く携へいたれり是イスラエルみな喜びたればなり

第一三章

茲にダビデ千人の長百人の長などの諸將とあひ議り 而してダビデ、イスラエルの全會衆に言けるは汝らもし之を善とし我らの神エホバこれを允したまはゞ我ら徧く人を遣してイスラエルの各地に留まれる我らの兄弟ならびにその諸郊地の邑々に在る祭司とレビ人とに至らせ之をして我らの所に集まらしめんと

而して我らまた我らの神の契約の匱を我らの所に移さんサウルの世には我ら之に就て詢ことをせざりしなりと 會衆みな然すべしと言ひ其は民みな此事を善と觀たればなり 是においてダビデはキリアテヤリムより神の契約の匱を昇きたらんとてエジプトのシホルよりハマテの入口までのイスラエル人をことごとく召あつめ

而してダビデ、イスラエルの一切の人とともにバアラといふユダのキリアテヤリムに上り往きケルビムの上に坐したまふエホバ神の名をもて稱らるゝ契約の匱を其處より昇のぼらんとし 乃ち神の契約の匱を新しき車に載てアピナダブの家より牽いだしウザとアヒオその車を御せり

ダビデおよびイスラエルの人はみな歌と琴と瑟と鼓と鐃と喇叭などを以て力をきはめ歌をうたひて神の前に踊れり

かくてキドンの禾場に至れる時ウザ手を神の契約の匱に伸してこれを扶へたり其は牛これを振たればなり

ウザその手を伸て契約の匱につけたるによりてエホバこれに向ひて忿怒を發してこれを撃たまひければ其處にて神の前に死し

エホバ、ウザを撃たまひしに因てダビデ怒れり其處は今日までペレヅウザ(ウザ撃)と稱へらる

その日ダビデ神を畏れて言ひ我なんぞ神の契約の匱を我所に昇ゆくべけんやと

ダビデその契約の匱を己のところダビデの城邑にうつさず之を轉らしてガテ人オベデエドムの家に昇いらしめたり

神の契約の匱

イ母前三一・一 賽 ハ母前七・五 母後六 ホ書一三・三 一五・二三、二五

三・七、四 へ書一五・九、六〇 代上 又母後六・五 一五・二三、二五 一五・二三、二五

口母前七・一、二 二母前六・二、七、一 卜母前四・四 母後六 一五・二三、二五 代上 又母後六・一

オベデエドムの家にありて其家族とともにおかるゝこと三月なりきエホバ、オベデエドムの家とその一切の所有を祝福たまへり

第一四章

茲にツロの王ヒラム使者をダビデに遣はし之がために家を建させんとて香柏および木匠と石工をおくれり
ダビデはエホバの固く己をたてゝイスラエルの王となしたまへるを曉れり其はその民イスラエルの故によりてその國振ひ興りたればなり

ダビデ、エルサレムにおいてまた妻妾を納たり而してダビデまた男子女子を得たり
そのエルサレムにて得たる子等の名は左のごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン
イブハル、エリシユア、エルバレテ
ノガ、ネベグ、ヤビア
エリシヤマ、ベエリアダ、エリバレテ

茲にダビデの膏そゝがれてイスラエル全國の王となれる事ペリシテ人に聞えければペリシテ人みなダビデを獲んとて上れりダビデは聞て之に當らんとて出たりしが
ペリシテ人すでに來りてレバイムの谷を侵したり
一〇 時にダビデ神に問て言けるは我ペリシテ人にむかひて攻上るべきや汝彼らを吾手に付し給ふやエホバ、
二 ダビデに言たまひけるは攻上れ我かれらを汝の手に付さんと
是において皆バアルペラジムに上りゆきけるが
ダビデつひに彼處にて彼らを打敗り而してダビデ言り神水の破壊り出ることくに我手をもてわが敵を敗りたまへりと是をもてその處の名をバアルペラジム(破壊の處)と呼ぶなり
彼ら其處にその神々を遺ゆきたればダビデ命じて火をもてこれを焚せたり

斯て後ペリシテ人復谷を侵しければ
ダビデまた神に問に神これに言たまひけるは彼らを追て上るべか

二五 らず彼らを離れて回りベカの樹の方よりこれを襲へ 一五 汝ベカの樹の上に進行の音あるを聞ば即ち進んで戦ふべし 二六 神汝のまへに進みいでペリシテ人の軍勢を撃たまふべければなりと 一六 ダビデすなはち神の己に命じたまひし如くしてペリシテ人の軍勢を撃やぶりつゝギベオンよりガゼルにまでいたれり 一七 是においてダビデの名諸の國々に聞えわたりエホバ諸の國人に彼を懼れしめたまへり

第一五章

一 ダビデはダビデの邑の中に自己のために家を建て又神の契約の匱のために處を備へてこれがために幕屋を張り 二 而してダビデ言けるは神の契約の匱を昇べき者は只レビ人のみ其はエホバ神の契約の匱を昇しめまた己に永く事しめんとしてレビ人を選びたまひたればなりと 三 ダビデすなはちエホバの契約の匱をその之がために備へたる處に昇のほらんとてイスラエルをことごとくエルサレムに召集めたり 四 ダビデまたアロンの子孫とレビ人を集めたり 五 即ちコハテの子孫の中よりはウリエルを長としてその兄弟百二十人 六 メラリの子孫の中よりはアサヤを長としてその兄弟二百二十人 七 ゲルシヨンの子孫の中よりはヨエルを長としてその兄弟百三十人 八 エリザバンの子孫の中よりはシマヤを長としてその兄弟二百人 九 ヘブロンの子孫の中よりはエリエルを長としてその兄弟八十人 一〇 ウジエルの子孫の中よりはアミナダブを長としてその兄弟百十人 一一 ダビデ祭司ザドクとアビヤタルおよびレビ人ウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し 一二 これに言けるは汝らはレビ人の宗家の長たり汝らと汝らの兄弟共に身を潔めイスラエルの神エホバの契約の匱を我が其の爲に備へたる處に昇のほれよ 一三 前には之をかきしもの汝らにあらざりしに縁て我らの神エホバわれらを撃たまへり是は我らそのさだめにしたがひて之に求めざりしが故なりと 一四 是において祭司等と

イ母後五・二三 二六・八 ホ代上一六・一 代上 一三・五 又母後六・三 代上 一三・七
 口母後五・二五 二申二・二五、一一 へ民四・二、一五 申 一〇・八、三一、九 子出六・二三
 ハ番六・二七 代下 二五 一〇・八、三一、九 子出六・二三 一三・七
 ル代上一三・一〇、

一五 レビ人等イスラエルの神エホバの契約の匱を昇のぼらんと身を潔め 一五 レビの子孫たる人々すなはちモーセが
エホバの言にしたがひて命じたるごとく神の契約の匱をその貫ける柱によりて肩に負り
一六 ダビデまたレビ人の長等に告げその兄弟等を選びて謳歌者となし瑟と琴と鏡鉞などの樂器をもちて打はや
一七 して歡喜の聲を擧しめよと言たれば 一七 レビ人すなはちヨエルの子へマンとその兄弟ベレキヤの子アサフおよび
一八 メラリの子孫たる彼らの兄弟クシャヤの子エタンを選び 一八 また之に次るその兄弟等これと偕にあり即ちゼカ
リヤ、ベン、ヤジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マツタテヤ、エリペレ
一九 ホ、ミクネヤおよび門を守る者なるオベデエドムとエイエル 一九 謳歌者へマン、アサフおよびエタンは銅の鏡鉞
二〇 をもちて打はやす者となり 二〇 ゼカリヤ、アジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナ
二一 ヤは瑟をもちて細き音を出し 二一 マツタテヤ、エリペレテ、ミクネヤ、オベデエドム、エイエル、アザジヤは琴を
二三 もちて太き音を出して拍子をとれり 二三 ケナニヤはレビ人の長にして負昇事に通じをるによりて負昇事を指揮せり
二四 またベレキヤとエルカナは契約の匱の門を守り 二四 祭司シバニヤ、ヨシヤバテ、ネタネル、アマサイ、ゼカ
リヤ、ベナヤ、エリエゼル等は神の契約の匱の前に進みて喇叭を吹きオベデエドムとエヒアは契約の匱の門を
守れり

二五 斯ダビデとイスラエルの長老および千人の長等は往てオベデエドムの家よりエホバの契約の匱を歡び勇み
二六 て昇のぼれり 二六 神エホバの契約の匱を昇ところのレビ人を助けたまひければ牡牛七匹牡羊七匹を献げたり
二七 ダビデは細布の衣をまとへり又契約の匱を昇ところの一切のレビ人と謳歌者および負昇事を主どれるケナニ

二八 ヤも然りダビデはまた白布のエホバを着居たり 斯てイスラエルみな聲を擧げ角を吹ならし喇叭と鑢鉞と瑟と

琴とをもて打はやしてエホバの契約の匱を昇のほれり

二九 エホバの契約の匱ダビデの邑にいりし時サウルの女ミカル窺より窺ひてダビデ王の舞躍るを見その心に

これを藐視めり

第一六章

一 人々神の契約の匱を昇いりて之をダビデがその爲に張たる幕屋の中に置る而して燔祭と酬恩祭を
神の前に献げたり 二 ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終しかばエホバの名をもて民を祝し

三 イスラエルの衆庶に男にも女にも都てパン一箇肉一片乾葡萄一塊を分ち與へたり

四 ダビデまたレビ人を立てエホバの契約の匱の前にて職事をなさしめ又イスラエルの神エホバを崇め讚め

五 かつ頌へしめたり 伶長はアサフその次はゼカリヤ、エイエル、セミラモテ、エヒエル、マツタテヤ、エリアブ、

六 ベナヤ、オベデエドム、エイエルこれは瑟と琴とを弾じアサフは鑢鉞を打鳴し また祭司ベナヤとヤハジエル

は喇叭をとりて恒に神の契約の匱の前に侍れり

七 當日ダビデ始めてアサフとその兄弟等を立てエホバを頌へしめたり其言に云く エホバに感謝しその名

九 をよびその作たまへることをもろもろの民輩の中にしらしめよ エホバにむかひてうたへエホバを讚うたへそ

二〇 のもろもろの奇しき跡をかたれ そのきよき名をほこれエホバをたづぬるものの心はよろこぶべし エホバ

二三 とその能力とをたづねよ恒にその聖顔をたづねよ その僕イスラエルの裔よヤコブの子輩よそのえらびたまひ

二四 し所のものよそのなしたまへる奇しき跡とその 異事とその口のさばきとを心にとむれ 彼はわれらの神エホ

イ代上一三・八 二母後二三・一 三、二八・一三、チ創二二・一七、二〇 詩一〇六・一、一〇 詩一〇六・四七、四
口母後六・一六 ホ詩一〇五・一一一五 三五・一一 三、出七・一五一 又詩九六・一 七、一、二一八・一、 八
ハ母後六・一七一九 へ創一七・二、二六・ ト創三四・三〇 一八 三、出七・一五一 又詩九六・一 七、一、二一八・一、 八
ル利一九・四 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一 一三六・一

一五 バなりそのおほくの審判は全地にあり 一五 なんぢらたえずその契約をこゝろに記よ此はよろづ代に命じたまひし
 一六 聖言なり 一六 アブラハムとむすびたまひし契約 イサクに興へたまひし誓なり 一七 之をかたくしヤコブのために
 一八 律法となしイスラエルのためにとこしへの契約となして 一八 言たまひけるは我なんぢにカナンの地をたまひてな
 一九 んぢらの嗣業の分となさん 一九 この時なんぢらの數おほからず甚すくなくしてかしこにて旅人となり 二〇 この國
 二一 よりかの國にゆきこの國よりほかの民にゆけり 二一 人のかれらを虐ぐるをゆるしたまはず 二二 かれらの故によりて
 二三 王たちを懲しめて 二三 宣給くわが受膏者たちにふるゝなかれわが預言者たちをそこなふなかれ 二三 全地よエホバ
 二四 にむかひて謳へ日ごとにその拯救をのべつたへよ 二四 もろもろの國のなかにその榮光をあらはしもろもろの民の
 二五 なかにその奇しきみわざを顯すべし 二五 そはエホバはおほいなり大にほめたゝふべきものなりまたもろもろの神
 二六 にまさりて畏るべきものなり 二六 もろもろの民のすべての神はことごとく虚しされどエホバはもろもろの天をつ
 二七 くりたまへり 二七 尊貴と稜威とはその前にあり能とよろこびとはその聖所にあり 二八 もろもろのたみの諸族よ榮
 二九 光とちからとをエホバにあたへよエホバにあたへよ 二九 その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ獻物をたづ
 三〇 さへて其前にきたれきよき美はしき物をもてエホバを拜め 三〇 全地よその前にをのゝけ世界もかたくたちて動か
 三一 さるゝことなし 三一 天はよろこび地はたのしむべしもろもろの國のなかにいへエホバは統御たまふ 三二 海とその
 三三 なかに盈るものとはなりどよみ田畑とその中のすべての物とはよろこぶべし 三三 かくて林のもろもろの樹もまた
 三四 エホバの前によるこびうたはんエホバ地をさばかんとて來りたまふ 三四 エホバに感謝せよそのめぐみはふかくそ
 三五 の憐憫はかぎりなし 三五 汝ら言へ我らの拯救の神よ我らを取集め列邦のなかより救ひいだしたまへ
 三六 我らは聖名に謝しなんぢのほむべき事をほこらん 三六 イスラエルの神エホバは窮なきより窮なきまでほむべき

かなすすべての民はアーメンとなへてエホバを讚稱へたり

三六 執行なはせたり 三八 オベデエドムとその兄弟等は合せて六十八人またエドトンの子なるオベデエドムおよびホサ

三九 は司門たり 三九 祭司ザドクおよびその兄弟たる祭司等はギベオンなる崇邱においてエホバの天幕の前に侍り

四〇 燔祭の壇の上にて朝夕斷ず燔祭をエホバに獻げ且エホバがイスラエルに命じたまひし律法に記されたる諸の

四一 事を行へり 四一 またヘマン、エドトンおよびその餘の選ばれて名を記されたる者等彼らとともにありてエホバの

四二 恩寵の世々限なきを讚まつれり 四二 即ちヘマンおよびエドトンかれらとともに居て喇叭鑢鉞など神の樂器を操て

四三 樂を奏せり又エドトンの子等は門を守れり 四三 かくて民みな各々その家にかへれり又ダビデはその家族を祝せん

とて還りゆけり

第十七章

一 ダビデその家に住にいたりてダビデ預言者ナタンに言けるは視よ我は香柏の家に住む然れどもエ
二 ホバの契約の匱は幕の下にありと 二 ナタン、ダビデに言けるは神なんぢとともに在せば凡て汝の

三 心にある所を爲せ 三 その夜神の言ナタンに臨みて曰く 四 往てわが僕ダビデに言へエホバかく言ふ汝は我ため

四 我の住べき家を建べからず 五 我はイスラエルを導びき上りし日より今日にいたるまで家に住しこと無して但

五 幕屋より幕屋に移り天幕より天幕に遷れり 六 我イスラエルの人々と共に歩みたる處々にて我わが民を牧養ふこ

六 とを命じたるイスラエルの士師の一人にもなんぢ何故に香柏の家を我ために建ざるやと一言にても言し事あり

七 や 然ば汝わが僕ダビデに斯言べし萬軍のエホバかく言ふ我なんぢを牧場より取り羊に隨がふ處より取て我民

イ申二七・一五 下二・三 ホ代上一六・三四代 一・二一
ロ王上三・四 二出二九・三八 民 下五・一三、七・三 へ母後六・一九、二〇
ハ代上二一・二九代 二八・三 喇三・一一 耶三三 卜母後七・一
チ母後七・一四、一五 又母後七・一八
リ路一・三三

- 八 イスラエルの君長と爲し 汝が凡て往る處にて汝と偕にあり汝の諸の敵を汝の前より斷されり我また世の中
九 の大なる人の名のごとき名を汝に得させん かつ我わが民イスラエルのために處を定めて彼らを植つけ彼らを
一〇 して自己の處に住て重て動くこと無らしめん 又惡人昔のごとく即ち我民イスラエルの上に士師を立たる時
より已來のごとく重ねて彼らを荒すこと無るべし我汝の諸の敵を壓服ん且今我汝に告ぐエホバまた汝のために
二 家を建ん 汝の日の満汝ゆきて先祖等と偕になる時は我汝の生る汝の子を汝の後に立て且その國を堅うせん
三 彼わが爲に家を建ん我ながく彼の位を堅うせん 我は彼の父となり彼はわが子となるべし我は汝の先に
四 ありし者より取たるごとくに彼よりは我恩恵を取さらじ 却て我かれを永く我家に我國に居置ん彼の位は
五 何時までも堅く立べし ナタン凡て是等の言のごとく凡てこの異象のごとくダビデに語りければ
一六 ダビデ王入てエホバの前に坐して言けるはエホバ神よ我は誰わが家は何なれば汝此まで我を導きたまひし
一七 や 神よ是はなほ汝の目には小き事たりエホバ神よ汝はまた僕の家の遙後の事を語り高き者のごとくに我を
一八 見做たまへり 僕の名譽についてはダビデこの上何をか汝に望むべけん汝は僕を知たまふなり エホバよ汝
一九 は僕のため又なんぢの心に循ひて此もろもろの大なる事を爲し此すべての大なる事を示たまへり エホバよ我
二〇 らが凡て耳に聞る所に依ば汝のごとき者は無くまた汝の外に神は無し 地の何の國か汝の民イスラエルに如ん
二一 是は在昔神の往て贖ひて己の民となして大なる畏るべき事を行なひて名を得たまひし者なり汝はそのエジプトよ
二二 り贖ひいだせし汝の民の前より國々の人を逐はらひたまへり 而して汝は汝の民イスラエルを永く汝の民とな
二三 したまふエホバよ汝は彼らの神となりたまへり 然ばエホバよ汝が僕とその家につきて宣まひし言を永く堅う
二四 して汝の言し如く爲たまへ 願くは汝の名の堅く立ち永久に崇められて萬軍のエホバ、イスラエルの神はイス

二五 ラエルに神たりと曰れんことを願くは僕ダビデの家の汝の前に堅く立んことを 我神よ汝は僕の耳に示して之
 二六 が爲に家を建んと宣へり是によりて僕なんぢの前に禱る道を得たり エホバよ汝は即ち神にましまし此恩典を
 二七 僕に傳たまへり 願くは今僕の家を祝福て汝の前に永く在しめたまへ其はエホバよ汝の祝福たまへる者は永く
 祝福を蒙ればなり

第一八章

一 此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服し又ペリシテ人の手よりガテとその郷里を取り 彼
 二 またモアブを撃ければモアブ人はダビデの臣となりて貢を納たり

三 ダビデまたハマテの邊にてゾバの王ハダレゼルを撃り是は彼がユフラテ河の邊にてその權勢を振はんとて
 四 往る時なりき 而してダビデ彼より車千輛騎兵七千歩兵二萬を取りダビデまた一百の車の馬を存してその餘
 の車馬は皆その足の筋を切り

五 その時ダマスコのスリア人ゾバの王ハダレゼルを援けんとて來りければダビデそのスリア人二萬二千を殺
 六 せり 而してダビデ、ダマスコのスリアに鎮臺を置ぬスリア人は貢を納てダビデの臣となれりエホバ、ダビデ
 七 を凡てその往く處にて助たまへり ダビデ、ハダレゼルの臣僕等の持る金の楯を奪ひて之をエルサレムに持
 八 たり またハダレゼルの邑テブハテとクンより甚だ衆多の銅を取きたれりソロモンこれを用て銅の海と柱と
 銅の器具を造れり

九 時にハマテの王トイ、ダビデがゾバの王ハダレゼルの總の軍勢を撃破りしを聞て 一〇 その子ハドラムをダ
 一〇 九 ビデ王に遣し安否を問ひかつこれを賀せしむ其はハダレゼル曾てトイと戰鬪をなしたるにダビデ、ハダレゼルと

イ 母後八・一
 ロ 母後八・四
 ハ 王上七・一五、二三
 代下四・二二、二五、
 一六

ニ 母後八・一三
 ホ 母後八・一四
 ヘ 母後八・一八
 ト 母後一〇・一

二 戦ひて之を撃やぶりたればなりハドラム金銀および銅の種々の器を携へきたりければ 二一
モアブ、アンモンの子孫ペリシテ人アマレクなどの諸の國民の中より取きたりし金銀とともに是等をもエホバに
奉納たり

二三 ゼルヤの子アビシヤイ鹽谷にてエドム人一萬八千を殺せり 二三
皆ダビデの臣となりぬエホバかくダビデを凡その往處にて助けたまへり

二四 ダビデはイスラエルの全地を治めてその諸の民に公平と正義を行へり 二五
ゼルヤの子ヨアブは軍旅の長

二六 アヒルデの子ヨシヤバテは史官 アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは祭司シヤウシヤは書記官

二七 エホヤダの子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長ダビデの子等は王の座側に侍る大臣なりき

二一 此後アンモンの子孫の王ナハン死ければその子これに代りて王となりたり 二二
ダビデ言けるは我

第一九章

ナハシの子ハヌンをねんごろに遇らはんかれが父われをねんごろにあしらひたればなりとダビデ

すなはち彼をその父の故によりて慰めんとて使者を遣はせりダビデの臣僕等アンモンの子孫の地に往きハヌンに

詣りてこれを慰めけるに 三
アンモンの子孫の牧伯等ハヌンに言けるはダビデ慰藉者を汝につかはしたるに因て

彼なんぢの父を尊ぶと汝の目に見ゆるや彼の臣僕等は此國を窺ひ探りて滅ぼさんとて來れるならずやと 四
是に

おいてハヌン、ダビデの臣僕等を執へてその鬚を剃おとしその衣服を中より斷て臀までにして之を歸したりしが

五人 或人きたりて此人々の爲られし事をダビデに告げればダビデ人をつかはして之を迎へしめたりその人々おほい

に愧たればなり即ち王いひけるは汝ら鬚の長るまでエリコに止まりて然る後かへるべしと

六 アンモンの子孫自己のダビデに悪まるゝ様になれるを見しかばハヌンおよびアンモンの子孫すなはち銀

七 一千タラントをおくりてメソポタミヤとスリアマアカおよびゾバより戦車と騎兵とを雇ひいれたり 即ち

九 戦車三萬二千乘にマアカの王とその兵士を雇ひければ彼ら來りてメデバの前に陣を張り是においてアンモンの

子孫その邑々より寄あつまりて戦はんとて來れり ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣しけるに アンモン

の子孫は出て邑の門の前に戦争の陣列をなせり又援助に來れる王等は別に野に居り

一〇 時にヨアブ前後より敵の攻寄るを見てイスラエルの倔強の兵士の中を抽擢て之をしてスリア人にむかひて

陣列しめ 二 其餘の民をばその兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫にむかひて陣列しめ 而して言

けるはスリア人もし我に手強からば汝我を助けよアンモンの子孫もし汝に手強からば我なんぢを助けん 汝

勇しくなれよ我儕の民のためと我らの神の諸邑のために我ら勇しく爲ん願くはエホバその目に善と見ゆる所をな

したまへと 一四 ヨアブ己に従へる民とともに進みよりてスリア人を攻撃けるにスリア人かれの前より潰奔れり

一五 アンモンの子孫はスリア人の潰奔れるを見て自己等もまたその兄弟アビシヤイの前より逃奔りて城邑にいり

ぬ是においてヨアブはエルサレムに歸れり

一六 スリア人はそのイスラエルに撃やぶられたるを見て使者を遣はして河の彼旁なるスリア人を將ゐ出せり

一七 ハダレゼルの軍旅の長シヨバクこれを率ゆ その事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めヨルダンを渡

りて彼らの所に來り之にむかひて戦争の陣列を立たりダビデかく彼らにむかひて戦争の陣列を立たれば彼らこれ

と戦へり 一八 然るにスリア人イスラエルの前に潰たればダビデ、スリアの兵車の人七千歩兵四萬を殺しまた

一九 軍旅の長シヨバクを殺せり 一九 ハダレゼルの臣たる者等そのイスラエルに撃やぶられたるを見てダビデと和睦を

イ代上一八・五、九

口母後二一・一 二母後二二・三〇、三 へ代上一一・二九
ハ母後二二・二六 ホ母後二二・一八 ト母後二四・一
チ代上二七・二三

なしてこれが臣となれりスリア人は此後ふたゝびアンモンの子孫を助くることを爲ざりき

第二十章

一 年かへりて王等の戦争に出る時におよびてヨアブ軍勢を率ゐて出でアンモン人の地を打荒し往て
二 ラバを攻圍りされどダビデはエルサレムに止まりたりヨアブつひにラバを撃壊りてこれを滅ぼせり
三 ダビデ彼らの王の冠冕をその首より取はなしたりしがその金の重を量り見るに一タラントありまたその中に
四 寶石を嵌たるありき之をダビデの首に冠らせたり彼また甚だ衆多の掠取物をその邑より取り 而して彼また
五 その中の民を曳いだし鋸と鉄の打車と斧とをもてこれを斬りダビデ、アンモンの子孫の一切の邑に斯く爲り
六 而してダビデとその民はみなエルサレムに歸りぬ

一 この後ゲゼルにおいてペリシテ人と戦争おこりたりしがその時にホシヤ人シベカイ巨人の子孫の一人なる
二 シバイを殺せり彼等つひに攻伏られき 復ペリシテ人と戦争ありしがヤイルの子エルハナン、ガテのゴリアテ
三 の兄弟ラミを殺せりラミの槍の柄は機の膝の如くなりき またガテに戦争ありしが其處に一人の身長き人あり
四 その手の指と足の趾は六宛にして合せて二十四あり彼も巨人の生る者なりき 彼イスラエルを挑みしかばダビ
五 デの兄弟シメアの子ヨナタンこれを殺せり 是等はガテにて巨人の生る者なりしがダビデの手とその臣僕の手
六 に斃れたり

第二十一章

一 茲にサタン起りてイスラエルに敵しダビデを感動してイスラエルを核數しめんとせり 二 ダビデ
二 すなはちヨアブと民の牧伯等に言けるは汝等ゆきてベエルシバよりダンまでのイスラエル人を數へ
三 その數をとりきたりて我に知せよ 三 ヨアブ答へけるは幾何あるとも願くはエホバその民を百倍に増たまへ
四 然ながら王わが主よ是はみな我主の僕ならずや然に何とて我主この事を爲んと要たまふや何ぞイスラエルをして

四 之によりて罪を獲せしむべけんやと されど王つひにヨアブに言勝たればヨアブすなはち出ゆきイスラエルを
 五 徧く行めぐりてエルサレムに還れり 而してヨアブ民の總數をダビデに告たり即ちイスラエルの中には劍を
 六 帶る者一十萬人ありユダの中には劍を帶る者四十七萬人ありき 但しレビとベニヤミンとはその中に數へ
 七 ざりき其はヨアブ王の言を惡みたればなり この事神の目に惡かりければイスラエルを撃なやましたまへり
 八 ダビデ是において神に申しけるは我この事をなして大に罪を獲たり然ども今ねがはくは僕の罪を除きたまへ
 我はなはだ愚なる事をなせりと

九 時にエホバ、ダビデの先見者ガデに告て言たまひけるは 往てダビデに告て言へエホバかく言ふ我なん
 二 ぢに三のものを示す汝その一を撰べ我それを汝に爲んと ガデすなはちダビデの許に至り之に言けるはエホバ
 三 かく言たまふ汝擇べよ 即ち三年の饑饉か又は汝三月の間 汝の敵の前に敗れて汝の仇の劍に追しかれんか又
 四 は三日の間エホバの劍すなはち疫病この國にありてエホバの使者イスラエルの四方の境の中にて撃滅ほすことを
 五 せんか我が如何なる答を我を遣せし者に爲べきかを汝決めよ ダビデ、ガデに言けるは我おほいに苦む請ふ
 六 我はエホバの手に陥らん其憐憫甚だおほいなればなり人の手には陥らじと 是においてエホバ、イスラエルに
 七 疫病を降したまひければイスラエルの七萬人斃れたり 神また使者をエルサレムに遣してこれを滅ぼさんと
 八 したまひしが其これを滅ぼすにあたりてエホバ視てこの禍害をなせしを悔い其ほろぼす使者に言たまひけるは
 九 足り今なんぢの手を住めよと時にエホバの使者はエブス人オルナン(ト)の打場の傍に立をる ダビデ目をあげて
 一〇 視るにエホバの使者地と天の間に立て拔身の劍を手にとりてエルサレムの方にこれを伸をりければダビデと

イ代上二七・二四 二母前九・九 ト創六・六
 ロ母後二四・一〇 ホ母後二四・一三 二代下三・一
 ハ母後二二・一三 ヘ母後二四・一六
 リ代下三・一 又母後二四・二四 又母後二四・二四
 ル利九・二四 代下三 王上三・四 代上
 一六・三九 代下三
 一六・三九 代下三

一七 長老等麻布を衣て俯伏り 而してダビデ神に申しけるは民を數へよと命ぜし者は我ならずや罪を犯し惡き事
なしたる者は我なり然れども是等の羊は何をなせしや我神エホバよ請ふ汝の手を我とわが父の家に加へたまへ
惟汝の民に加へて之を疚めたまふ勿れと

一八 時にエホバの使者ガデに命じ汝ダビデに告てダビデをして上りゆきてエブス人オルナンの打場にてエホバ
一九 のために一箇の壇を築しめよと言ひ 是においてダビデはガデがエホバの名をもて告たる言にしたがひて上り
二〇 ゆけり 二〇 オルナンは麥を打るけるが回顧て天の使の居るを視その四人の子等とともに匿れたり 二二 やがてダビ
二一 デはオルナンの方に來りけるがオルナン望てダビデを見すなはち打場より出ゆきて面を地につけてダビデを拜せ

二三 二二 ダビデ、オルナンに言けるは此打場の處を我に與へよ我そこにてエホバに一箇の壇を築かん汝その十分の
二三 値をとりて之を我にあたへ災害の民におよぶことを止めしめよ 二三 オルナン、ダビデに言けるは請ふ之を取り
二四 王わが主の目に善と觀るところを爲たまへ我なんぢに獻げて牛を燔祭の料とし打禾車を柴薪とし麥を素祭とせん

二五 二四 我みなこれを奉呈ると 二四 ダビデ王オルナンに言けるは然るべからず我かならず十分の値をはらひて之を買ん
二五 我は汝の物を取てエホバに奉まつらじ 又費なしに燔祭を獻ぐることをせじと 二五 ダビデすなはち其處のために
二六 金六百シケルを衡りてオルナンに與へたり 二六 而してダビデ其處にてエホバに一箇の祭壇を築き燔祭と酬恩祭を

二七 二六 獻げてエホバを顛けるに天より燔祭の壇の上に火を降して之に應へたまへり 二七 エホバすなはちその使者に命じ
二七 たまひければ彼その劍を鞘に藏めたり

二八 二七 二八 その時ダビデはエホバがエブス人オルナンの打場において己に應へたまふを見たれば其處にて犠牲を獻ぐ
二九 二八 二九 ることを爲り 二九 モーセが荒野にて造りたるエホバの幕屋と燔祭の壇とは當時ギベオンの崇邱にありけるが

三〇 ダビデはその前に進みゆきて神に求むることを得せざりきは彼は彼エホバの使者の劍のために懼れたるに因てなり

第二章

一 ダビデ言けるはエホバ神の室は此なりイスラエルの燔祭の壇は此なりと

二 ダビデすなはち命じてイスラエルの地に居る異邦人を集めしめ又神の室を建るに用ふる石を

三 琢ために石工を設けたり ダビデまた門の扉の釘および鏝に用ふる鐵を夥しく備へたり又銅を敷しれぬ

四 ほどに夥しく備へたり また香柏を備ふること敷しれず是はシドン人およびツロの者夥多しく香柏をダビデの

五 所に運びきたりたればなり ダビデ言けるは我子ソロモンは少くして弱し又エホバのために建る室は極めて

高大にして萬國に名を得榮を得る者たらざる可らず今我其がために準備をなさんとダビデその死る前に大に之が

準備をなせり

七六 而して彼その子ソロモンを召てイスラエルの神エホバのために家を建ることを之に命ぜり 即ちダビデ、

八 ソロモンに言けるは我子よ我は我神エホバの名のために家を建る 志ありき 然るにエホバの言われに臨みて

九 言り汝は多くの血を流し大なる戦争を爲したり 汝我前にて多の血を地に流したれば我名の爲に家を建べからず

一〇 視よ男子汝に生れん是は平安の人なるべし我これに平安を賜ひてその四周の諸の敵に煩はさるゝこと無らし

一〇 めん故に彼の名はソロモン(平安)といふべし彼の世に我平安と靜謐をイスラエルに賜はん 彼わが名のために

二 家を建ん彼はわが子となり我は彼の父とならん我かれの國の祚を固うして永くイスラエルの上に立しめん 然

ば我子よ願くはエホバ汝とともに在し汝を盛ならしめ汝の神エホバの室を建させて其なんぢにつきて言たる如く

イ甲一二・五 母後二 二八 代下三・一 二二・一四 へ甲一二・五、一一 一、二八・二 五・五 代上一七・テ來一・五
四・一八 代上三二 口王上九・二二 二王上五・六 ト母後七・二 王上八 七王上五・三 代上 又王上四・二五、五・四 二二・一三、二八 代上三二・一六
二八、一九、二六、 八王上七・四七 代上 ホ代上三九・一 二七 代上一七、 二八・三 二八・三 王上 六

カ王上三・九、一二詩 一・六、七、九 代上 二・四 母後七・一 ラ王上八・六、二一代 井申一六・一八 代上 才出六・二六 民二六
 七三・一 二八・二〇 代上 二二三・二五 下五・七、六、一一 二六・二九 代下 五七 代上六・一
 ヨ書一・七、八 代上 レ代上二二三・三 代下二〇・三 王上一・三三三・三九 一九・八 代下八・一四、二九
 二八・七 ツ代上三三三・一一 大王上五・三 代上 代上二八・五 代下二九・二五、二 二二五
 夕甲三一・七、八 書 ツ甲二二・一〇 書二 二二・七 ウ民四・三、四七 六 慶六・五

三 したまはんことを 惟ねがはくはエホバ汝に智慧と穎悟を賜ひ汝をイスラエルの上に立て汝の神エホバの律法

三 汝に守らせたまはんことを 汝もしエホバがイスラエルにつきてモーセに命じたまひし法度と例規を謹みて

四 行はゞ汝旺盛になるべし心を強くしかつ勇め懼るゝ勿れ慄くなかれ 視よ我患難の中にてエホバの室のために

一五 金十萬タラント銀百萬タラントを備へまた銅と鐵とを數しれぬほど夥多しく備へたり又材木と石をも備へたり汝

一五 また之に加ふべし かつまた工人夥多しく汝の手にあり即ち石や木を琢刻む者および諸の工作を爲すところの

一六 工匠など都てあり 夫金銀銅鐵は數限りなし汝起て爲せ願くはエホバ汝とともに在せと

一七 一七 ダビデまたイスラエルの一切の牧伯等にその子ソロモンを助くることを命じて云く 汝らの神エホバ

一八 なんぢらと偕に在すならずや四方において泰平を汝らに賜へるならずや即ちこの地の民を我手に付したまひて

一九 この地はエホバの前とその民の前に服せり 然ば汝ら心をこめ精神をこめて汝らの神エホバを求めよ汝ら起て

一 一 エホバ神の聖所を建てエホバの名のために建るその室にエホバの契約の匱と神の聖器を携さへいるべし

第二三章

一 一 ダビデ老てその日滿ければその子ソロモンをイスラエルの王となせり 二 一 ダビデ、イスラエルの

二 一切の牧伯および祭司とレビ人をあつめたり 三 一 レビ人の三十歳以上なる者を數へたるにその人々

四 一 四 の頭數は三萬八千 四 一 四 その中二萬四千はエホバの室の事幹を掌どり六千は有司および裁判人たり 五 一 四 千は門を

六 一 六 守る者たりまた四千はダビデが造れる讚美の樂器をとりてエホバを頌ることをせり 六 一 六 ダビデ、レビの子孫を分

七 一 七 ちて班列を立たり即ちゲルシオン、コハテおよびメラリ

七
ゲルシオン人たる者はラダンおよびシメイ
九
シメイの子等はシロミテ、ハジエル、ハランの三人是等はラダンの宗家の長たり
一〇
シメイの子等はヤハテ、

二
ジナ、エウシ、ベリア この四人はシメイの子なり
二
ヤハテは長
ジナはその次
エウシ、ベリアは子多からざる

が故に之をとともに數へて一の宗家となせり

二三
コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人
二三
アムラムの子等はアロンとモーセ、

一四
アロンはその子等とともに永く區別れてその身を潔めて至聖者となりエホバの前に香を焚き之に事へ恒にこれが
名をもて祝することを爲り
神の人モーセの子等はレビの支派の中に數へいれらる
モーセの子等はゲルシ

一六
ヨンおよびエリエゼル
ゲルシヨンの子等は長はシブエル
エリエゼルの子等は長はレハビヤ、エリエゼル
一八
は此外に男子あらざりき但しレハビヤの子等は甚だ多かりき
イツハルの子等は長はシロミテ
ヘブロンの子
等は長子はエリヤその次はアマリヤその三はヤハジエル
その四はエカメアム
ウジエルの子等は長子は

二〇
ミカ次はエシヤ
二三
メラリの子等はマヘリおよびムシ、マヘリの子等はエレアザルおよびキシ
二三
エレアザルは男子なくして
死に惟女子ありし而已その女子等はキシの子たるその兄弟等これを娶れり
ムシの子等はマヘリ、エデル、

二四
エレモテの三人
二四
レビの子孫をその宗家に循ひて言は是のごとし是皆かの頭數を數へられその名を録されてエホバの家の

二五
役事をなせる二十歳以上の者の宗家の長なり
二五
ダビデ言けらくイスラエルの神エホバその民を安んじて永く

イ代上二六・二二
ニ出二八・一
ホ出三〇・七
ハ出六・二〇
來五・四
民一六
ト民六・二三
ヘ申二一・五
チ代上二六・二三
二五
リ出二・二三、一八
又代上二六・二四
ワ代上二四・二六
タ民三六・六、八
レ代上二四・三〇
ソ民一〇・二七、二一
ツ民一・三、四、三
ハ・二四
代上三三
二七
噸三・八

ナ民四・五
 ラ出二五・三〇
 ム利六・二〇
 代上九
 井利二・五、七
 二二九
 ウ利二・四
 井利二・五、七
 ノ利一九・三五
 オ民一〇・一〇
 詩
 ヤ民一・五三
 一八・三
 マ民三・六、九
 ケ利一〇・二、六
 民
 二六・六〇
 フ民三・四、二六
 六二

二六 エルサレムに住たまふ
 二七 レビ人はまた重ねて幕屋およびその奉事の器具を昇ことあらずと
 二八 ダビデの最後の
 詞にしたがひてレビ人は二十歳以上よりして數へられたり
 二九 彼らの職はアロンの子孫等の手に屬して神の家の
 役事を爲し庭と諸の室の用を爲し一切の聖物を潔むるなど凡て神の家の役事を勤むるの事なりき
 三〇 また供前の
 パン素祭の麥粉酵いれぬ菓子鍋にて製る者焼て製る者などを掌どりまた凡て容積と長短を量度ることを掌ど
 三〇 また朝ごとに立てエホバを頌へ讚ることを掌どりまた凡て容積と長短を量度ることを掌ど
 三二 又安息日と朔日と節會においてエホ
 バに諸の燔祭を獻げ其命ぜられたる所に循ひて數のごとくに斷ずこれをエホバの前にたてまつる事を掌どり
 三三 是のごとく彼らは集會の幕屋の職守と聖所の職守とアロンの子孫たるその兄弟等の職守とを守りてエホバの
 家の役事をおこなふ可りしなり

第二十四章

一 アロンの子孫の班列は左のごとしアロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル
 二 ダブとアビウはその父に先だちて死て子なかりければエレアザルとイタマル祭司となれり
 三 ダビ
 四 デ、エレアザルの子孫ザドクおよびイタマルの子孫アヒメレクとともに彼らを分ちて各その職と務に任じたり
 五 エレアザルの子孫の中にはイタマルの子孫の中よりも長たる人多かりき是をもてその分たれし班列はエレアザ
 ルの子孫たる宗家の長には十六ありイタマルの子孫たる宗家の長には八あり
 六 斯彼らは籤によりて分たる彼と
 七 此と相等し其は聖所の督者および神の督者はエレアザルの子孫の中よりも出でイタマルの子孫の中よりも出れば
 八 なり
 九 レビ人ネタネルの子シマヤといふ書記王と牧伯等と祭司ザドクとアビヤタルの子アヒメレクと祭司お
 十 よびレビ人の宗家の長の前にて之を書しるせり即ちエレアザルのために宗家一を取ばまたイタマルのために宗家

一を取

第一の籤はヨアリブに當り第二はエダヤに當り 第三はハリムに當り第四はセオリムに當り 第五は

マルキヤに當り第六はミヤミンに當り 第七はハツコヅに當り第八はアビアに當り 第九はエシユアに當り

第十はシカニヤに當り 第十一はエリアシブに當り第十二はヤキンに當り 第十三はホツバに當り第十四は

エシバブに當り 第十五はビルガに當り第十六はインメルに當り 第十七はヘジルに當り第十八はハビセツ

に當り 第十九はベタヒヤに當り第二十はエゼキエルに當り 第二十一はヤキンに當り第二十二はガムルに

當り 第二十三はデラヤに當り第二十四はマアジアに當れり 是の職務の順序なり彼らは之にしたがひて

エホバの家にいり其先祖アロンより傳はりし例規によりて勤むべかりしなり即ちイスラエルの神エホバの彼に命

じたまひしごとし

その餘のレビの子孫は左の如しアムラムの子等の中にはシユバエル、シユバエルの子等の中にはエデ

ヤ、レハビヤについてはレハビヤの子等の中には長子イツシア、イツハリ人の中にはシロミテ、シロミ

テの子等の中にはヤハテ、ヘブロンの子等の中には長子エリヤ二子アマリヤ三子ヤハジエル四子エカメ

アム、ウジエルの子等の中にはミカ、ミカの子等の中にはシヤミル、ミカの兄弟をイツシアといふイツ

シアの子等の中にはゼカリヤ、メラリの子等はマヘリおよびムシ、ヤジアの子等はベノ、メラリの子孫の

ヤジアより出たる者はベノ、シヨハム、ザツクル、イブリ、マヘリよりエレアザル出たりエレアザルは子等なか

りき、キシについてはキシの子はエラメル、ムシの子等はマヘリ、エデル、エリモテ是等はレビの子孫にし

イ代上二四、一七路、ハ代上三三、一六、ヘ代上三三、一九、二、二二三、二二、
一、五、二代上三三、一七、六、三、一、チ代上三三、二二、
口代上九、二五、ホ代上三三、一八、ト出六、一九、代上、リ代上三三、二二、
又代上六、三三、三九、ル代上二五、二、
四四

二 てるその宗家にしたがひて言る者なり 是らの者もまたダビデ王とザドクとアヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長たる者等の前にてアロンの子孫たるその兄弟等のごとく籤を掣り兄の宗家も弟の宗家も異なること無りき

第二十五章

一 ダビデと軍旅の牧伯等またアサフ、ヘマンおよびエドトンの子等を選びて職に任じ之をして琴と瑟と鑿鈸を執て預言せしむその職によれば伶人の數左のごとし 二 アサフの子等はザツクル、ヨセフ、ネタニア、アサレラ 皆アサフの子等にしてアサフの手に屬すアサフは王の手につきて預言す 三 エドトンについてはエドトンの子等はゲダリア、ゼリ、エサヤ、ハンヤビヤ、マツタテヤの六人 皆琴を操てその父エドトンの手に屬すエドトンはエホバを讚めかつ頌へて預言す 四 ヘマンについてはヘマンの子等たる者はブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シブエル、エレモテ、ハナニヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルテ、ロمامテエゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハジオテ 五 是みな神の言をつたふる王の先見者ヘマンの子等にして角を擧ぐ神ヘマンに男子十四人女子三人を賜へり 六 是等の者は皆その父の手に屬しエホバの家において歌を謠ひ鑿鈸と瑟と琴をもて神の家の奉事をなせりアサフ、エドトンおよびヘマンは王の手につけり 七 彼等およびエホバに歌を謠ふことを習へるその兄弟等即ち巧なる者の數は二百八十八人 八 彼ら大も小も巧なる者も習ふ者も皆ともにその職務の籤を掣けるが

九 第一の籤はアサフの家のヨセフに當り第二はゲダリアに當れり彼もその兄弟等および子等十二人 第三はザツクルに當れりその子等とその兄弟等十二人 第四はイヅリに當れりその子等とその兄弟等十二人 第五はネタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 第六はブツキアに當れりその子等とその兄弟等十二人 第七はアサレラに當れりその子等とその兄弟等十二人 第八はエサヤに當れりその子等とその兄弟等十二人

二六 人 第九はマツタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十はシメイに當れりその子等とその兄弟等

二七 十二人 第十一はアザリエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十二はハシヤビアに當れりその子等

二八 とその兄弟等十二人 第十三はシュバエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十四はマツタテヤに當

二九 れりその子等とその兄弟等十二人 第十五はエレモテに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十六はハナ

三〇 ニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十七はヨシベカシヤに當れりその子等とその兄弟等十二人

三一 第十八はハナニに當れりその子等とその兄弟等十二人 第十九はマロテに當れりその子等とその兄弟等十

三二 二人 第二十はエリアタに當れりその子等とその兄弟等十二人 第二十一はホテルに當れりその子等とその

三三 兄弟等十二人 第二十二はギダルテに當れりその子等とその兄弟等十二人 第二十三はマハジオテに當れり

三四 その子等とその兄弟等十二人 第二十四はロママテエゼルに當れりその子等とその兄弟等十二人

三五 門を守る者の班列は左のごとしコラ人の中にてはアサフの子コレの子なるメシレミヤ 二 三

三六 ミヤの子等は長子はゼカリヤその次はエデアエルその三はゼバデヤその四はヤテニエル 三 四 五

三七 はエラムその六はヨハナンその七はエリヨエナイ 四 五 またオベデエドムの子等は長子はシマヤその次はヨザバデ

三八 その三はヨアその四はサカルその五はネタネル 五 六 その六はアシミエルその七はイツサカルその八はピウレタイ

三九 是は神かれを祝福たまひしなり 六 また彼の子シマヤにも數人の子生れたりしがその子等は大勇士にしてその父

四〇 の家の主たる者なりき 七 すなはちシマヤの子等はオテニ、レバエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟

四一 エリウとセマキヤは力ある人なりき 八 是みなオベデエドムの孫子なり彼らとその子等および其兄弟等は合せて

四二 六十二人皆力ある者にしてその職に堪ふ是みなオベデエドムに屬する者なり 九 メシレミヤも子等と兄弟等合せて

四三

一〇 て十八人あり皆力ある者なりき
一〇 メラリの子孫ホサもまた子等ありき其長はシムリ是は長子ならざりしかども
二 その父これを長となせしなり
二一 その次はヒルキヤその三はデバリヤその四はゼカリヤ、ホサの子等と兄弟等は合せて十三人

二三 門を守るところの班列此長等の中より出でみなその兄弟と等く勤務をなしてエホバの家に仕ふ 彼ら

二四 門々を分つために小も大もともにその宗家に循ひて籤を掣たりしが 東の方の籤はシレミヤに當れり又その子

二五 ゼカリヤのために籤を掣けるに北の方の籤これに當れりゼカリヤは智慧ある議士なりき オベデエドムは南の

二六 方の籤に當りその子等は倉の籤に當れり シユバムおよびホサは西の方の籤にあたり坂の大路にあるシヤレケ

二七 テの門の傍に居り守者はみな相對ふ 東の方にはレビ人六人 北の方には日々に四人 南の方にも日々に四人

二八 倉のかたはらには二人に二人 西の方バルバルにおいては大路に四人バルバルに二人 門を守る者の班列は

是のごとし皆コラの子孫とメラリの子孫なり

二〇 また神の府庫および聖物の府庫を司どれる彼らの兄弟なるレビ人は左のごとし ラダンの子孫すなはち

三三 ラダンより出たるゲルシヨン人にしてゲルシヨン人ラダンの宗家の長たる者の中にてはエヒエリ およびエヒ

三三 エリの子等ならびにその兄弟ゼタムとヨエル 是らはエホバの家の府庫を司どれり アムラミ人イツハリ人

三四 ヘブロン人ウジエリ人の中においては左のごとし モーセの子ゲルシヨムの子なるシブエルは府庫の宰たり

三五 その兄弟にしてエリエゼルより出たる者は即ちエリエゼルの子レハビヤその子エサヤその子ヨラムその子

三六 ジクリその子シロミテ 此シロミテとその兄弟等はすべての聖物の府庫を掌どれりその聖物はすなはち

二七 ダビデ王宗家の長千人の長百人の長軍旅の長等などが奉納たる者なり 即ち戦争において獲たる物および

二八 掠取物を奉納てエホバの家の修繕に供へたるなり 凡て先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、

ゼルヤの子ヨアブ等が奉獻たる物および其他の奉納物は皆シロミテとその兄弟等の手の下にありき

二九 イヅハリ人の中にてはケナニヤとその子等イスラエルの外事を理め有司となり裁判人となれり へブロ

三〇 ン人の中にてはハシヤビアおよびその兄弟などの勇士一千七百人ありてヨルダンの此旁すなはち西の方にてイス

ラエルの監督者となりエホバの一切の事を行ひ王の用を爲り へブロン人の中にてはその系譜と宗家とに依ば

エリヤといふ者へブロン人の長なりダビデの治世の四十年に彼らを尋ね求めギレアデのヤゼルにおいて彼らの中

より大勇士を得たり エリヤの兄弟たる勇士は二千七百人にして皆宗家の長たりダビデ王かれらをしてルベン

人ガド人およびマナセの半支派を監督せしめ神につける事と王につける事とを宰どらせたり

第二十七章

一 イスラエルの子孫すなはち宗家の長千人の長百人の長およびその有司等は年の惣の月のあひだ月ごとに更り入り更り出で其班列の諸の事をつとめて王に事へたるが其數を按ふるに一班列に二萬

二 四千人ありき 先第一の班列すなはち正月の分はザブデエルの子ヤシヨペアムこれを率ゆ其班列は二萬四千人

三 彼は正月の軍團の長等の首たる者にしてペレヅの子孫なり 二月の班列はアホア人ドダイその班列の者と

四 ともにこれを率ゆミクロテといふ宰あり其班列は二萬四千人 三月の軍團を統る第三の將は祭司の長エホヤダ

五 の子ベナヤその班列は二萬四千人 このベナヤはかの三十人の中の勇士にして三十人の上にたてり彼の子アミ

六 ザバデその班列にあり 四月の分を統る第四の將はヨアブの弟アサヘルにしてその子ゼバデヤこれに次り其

イ母前九九 二卷二二・三九 一・二・三 二二二
ロ代上二三・四 六代下二九・一一 ト母後三三・二〇、二二 七母後三三・二四 代
ハ代上二三・一九 へ母後三三・八 代上 二二・三三 代上二一 上二二・二六

リ代上二二・二八 上二二・二九 上二二・三〇 上二二・三一
 又代上二二・二七 上二二・二八 上二二・二九 上二二・三〇
 ル母後二二・一八 代 上二二・二八 代 上二二・二九 代 上二二・三〇
 タ母前二六・六 上二二・七
 レ創一五・五
 ソ母後二四・一五 代

九八 班列は二萬四千人 五月の分を統る第五の將はイスラヒ人シヤンモテその班列は二萬四千人 六月の分を統

〇 第六の將はテユア人イツケシの子イラその班列は二萬四千人 七月の分を統る第七の將はエフライムの子孫

二 たるペロニ人ヘレツその班列は二萬四千人 八月の分を統る第八の將はゼラの子孫たるホシヤ人シベカイその

班列は二萬四千人 九月の分をすぶる第九の將はベニヤミンの子孫たるアナトテ人アビエゼルその班列は二萬

四千人 十月の分をすぶる第十の將はゼラの子孫たるネトバ人マハライその班列は二萬四千人 十一月の分

をすぶる第十一の將はエフライムの子孫たるピラト人ベナヤその班列は二萬四千人 十二月の分を統る第十

二の將はオテニエルの子孫たるネトバ人ヘルダイその班列は二萬四千人

一六 イスラエルの支派を治むる者は左のごとしルベン人の牧伯はヂクリの子エリエゼル、シメオンの牧伯は

一七 マアカの子シバテヤ、レビ人の牧伯はケムエルの子ハシヤビヤ、アロン人の牧伯はザドク、ユダの牧伯はダ

一八 ビデの兄弟エリウ、イツサカルの子オムリ、ゼブルンの牧伯はオバデヤの子イシマヤ、ナフ

二〇 タリの牧伯はアズリエルの子エレモテ、エフライムの子孫の牧伯はアザジヤの子ホセア、マナセの半支派の

牧伯はペダヤの子ヨエル、ギレアデなるマナセの半支派の牧伯はゼカリヤの子イド、ベニヤミンの牧伯はア

二三 ブネルの子ヤシエル、ダンの牧伯はエロハムの子アザリエル、イスラエルの支派の牧伯等は是のごとし、二

十歳以下なる者はダビデこれを數へざりき其はエホバかつてイスラエルを増て天空の星のごとくにせんと言たま

三 ひしことあればなり、ゼルヤの子ヨアブ數ふることを始めたりしがこれを爲をへざりきそのかぞふることに

よりて震怒イスラエルにおよべりその數はまたダビデ王の記録の籍に載ざりき

二五 アデエルの子アズマウテは王の府庫を掌どりウジヤの子ヨナタンは田野 邑々村々城などにある府庫を掌

二六 どり ケルブの子エズリは地を耕す農業の人を掌どり ラマテ人シメイは葡萄園を掌どりシフミ人ザブデは

二七 その葡萄園より取る葡萄酒の蔵を掌どり ゲテラ人バアルハナンは平野なる橄欖樹と桑樹を掌どりヨアシは油

二八 の蔵を掌どり シヤロン人シテライはシヤロンにて牧ふ牛の群を掌どりアデライの子シヤバテは谷々にある牛

二九 の群を掌どり イシマエル人オビルは駱駝を掌どりメロノテ人エデヤは驢馬を掌どり ハガリ人ヤジズは羊

三〇 の群を掌どり 是みなダビデ王の所有を掌どれる者なり

三一 またダビデの叔父ヨナタンは議官たり彼は智慧あり學識ある者なり又ハクモニの子エヒエルは王の子等の

三二 補佐たり アヒトペルは王の議官たりアルキ人ホシヤイは王の伴侶たり アヒトペルに次ぐ者はペナヤの子

三三 エホヤダおよびアビヤタル 王の軍旅の長はヨアブ

第二十八章

茲にダビデ、イスラエルの一切の長支派の長王に事ふる班列の長千人の長百人の長王とその
子等の所有及び家畜を掌どる者閹官有力者諸勇士などを盡くエルサレムに召集め 而して

一 ダビデ王その足にて起て言けるは我兄弟等我民よ我に聽け我はエホバの契約の匱のため我らの神の足臺のために

二 安居の家を建んと志ありて已にこれを建る準備をなせり 然るに神我に言たまへり汝は我名のために家を

三 建べからず汝は軍人にして許多の血を流したればなりと 然りと雖もイスラエルの神エホバ我父の全家の中

四 より我を選びて永くイスラエルに王たらしめたまふ即ちユダを選びて長となしユダの全家の中より我父の家を

五 選び我父の子等の中にて我を悦びイスラエルの王とならしめたまふ 而してエホバ我に衆多の子をたまひて其

イ母後一五・二二 ハ王上一・七 へ代上二七・二二 二・三一五 四、二二・八 二 詩六〇・七、ヨ母前二六・二二、一
ロ母後一五・三七、一 二代上一・六 ト代上二七・二五 七 母後七・五、一三三王 母前一六・七一、一三 七八・六八 三
六・一六 ホ代上二七・一六 子代上一・一〇 又母後七・二 詩一三 上五・三 代上一七 刀制四九・八 代上五 カ母前一六・一 夕代上三・一、二三・一

レ代上二二・九 代下二・九 一約一七・三 ラ母前一六・七 王上 一三九・二 撒二・三 一二 默二・二三 井出二五・四〇 代上
ソ母後七・二三、一四 ツ代上三三・一三 ナ王下二〇・三 詩一 八・三九 代上三九 三耶二一・二〇、ム代下一五・二 二八・一九
代上三三・九、一〇 ネ耶九・二四 何四・ 〇一・二 一七 詩七・九、 一七・一〇、二〇、ウ代上二八・六 ノ代上二六・二〇

六 わが諸の子等の中より我子ソロモンを選び之をエホバの國の位に坐せしめてイスラエルを治めしめんとしたまふ
六 エホバまた我に言たまひけるは汝の子ソロモンはわが家および我庭を作らん我かれを選びて吾子となせり我
かれの父となるべし 彼もし今日のごとく我誠命と律法を堅く守り行はゞ我その國を永く堅うせんと 然ば
今エホバの會衆たるイスラエルの全家の目の前および我らの神の聞しめす所にて汝らに勸む汝らその神エホバの
一切の誠命を守りかつ之を追もとむべし然せば汝等この美地を保ちてこれを汝らの後の子孫に永く傳ふることを
得ん

九 我子ソロモンよ汝の父の神を知り完全心をもて喜び勇んで之に事へよエホバは一切の心を探り一切の
思想を曉りたまふなり汝もし之を求めなば之に遇ん然ど汝もし之を棄なば永く汝を棄たまはん 然ば汝謹めよ
一〇 エホバ汝を選びて聖所とすべき家を建させんと爲たまへば心を強くしてこれを爲べしと

- 二 而してダビデは殿の廊およびその家その府庫その上の室その内の室贖罪所の室などの式様をその子ソロ
- 三 モンに授け また其心に思ひはかれる一切の物すなはちエホバの家の庭四周の諸の室神の家の府庫聖物の
- 四 府庫などの式様を授け また祭司およびレビ人の班列とエホバの家の諸の奉事の工とエホバの家の諸の奉事の
- 五 器皿とにつきて諭すところあり また諸の奉事に用ふる金の器皿を作る金の重量を定め又諸の奉事の器に
- 六 用ふる諸の銀の器皿の銀の重量を定む 即ち金の燈臺とその金の燈蓋の重量を宣て一切の燈臺とその
- 七 燈蓋の重量を定め又銀の燈臺につきても各々の燈臺の用法にしたがひて燈臺とその燈蓋の重量を定め また
- 八 供前のパンの案につきてはその各の案のために金の重量を定め又銀の案のためにも銀を定め 又肉鉤 孟杓の

ために用ふる純金の重量を定め金の重量の大學につきてもまた各々の大學のために重量を定め銀の一切の大學の

ために重量を定め 一八 また香壇のために用ふる精金の重量を定めかつ車なるケルビムの式様の金を定む此ケル

ビムはその翼を展てエホバの契約の匱を覆ふ 一九 而してダビデ言けらく此工事の式様は皆ことごとくエホバの

その手を我上にくだして我を教へて書せたまひし者なりと

二〇 かくてダビデその子ソロモンに言けるは汝心を強くし勇みてこれを爲せ懼るゝ勿れ慄くなかれエホバ神

我神汝とともに在さん彼かならず汝を離れず汝を棄ず汝をしてエホバの家の奉事の諸の工を成終しめたまふべし

二一 視よ神の家の諸の役事をなすためには祭司とレビ人の班列あり又諸の工と従事を悦びて爲とこところの

諸の技巧者汝とともに在り且また牧伯等および一切の民汝の命ずるところを悉く行はん

第二十九章

一 ダビデ王また全會衆に言けるは我子ソロモンは神の惟獨選びたまへる者なるが少くして弱く此 二 工事は大なり此殿は人のために非ずエホバ神のためにする者なればなり 是をもて我力を盡して

我神の家のために物を備へたり即ち金の物を作る金銀の物の銀銅の物の鐵木物の物を備へ

たり又葱珩嵌石黒石火崗 諸の寶石蠟石など夥多し かつまた我わが神の家を悦ぶが故に聖所のために備

へたる一切の物の外にまた自己の所有なる金銀をわが神の家に獻ぐ 即ちオフルの金三千タラント精銀七千タ

ラントを獻げてその家々の壁を蔽ふに供ふ 金は金の物に銀は銀の物に凡て工人の手にて作るものに用ふべし

誰か今日自ら進んでエホバのためにその手に物を盈さんかと

六 是において宗家の長イスラエルの支派の牧伯等千人の長百人の長および王の工事を掌どる者等誠意より

- イ 出二五・一八—二二
- 母前四・四 王上六
- ハ 申三一・七八 書 二卷一・五
- ロ 出二五・四〇 代上 一・六、七、九 代上 ホ代上二四・二五、
- 二八・一一、一二 三三・一三 二六・
- へ 出三五・二五、二六、
- ト 王上三・七 代上 三六・一、二
- チ 賽五四・一一、一二 又代上二七・一
- リ 王上九・二八 二二・五 撒四・三 九代上二七・二五

ナ代上二六・二一 一七 黙五・二三 一一・二三 彼前二 九、一〇二・一一、 二八・九
ワ母後九・七 ヨ羅一一・三六 一一 一四四・四 ツ徳一一・二〇
カ太六・二三 提前一 夕詩三九・一二 來 レ伯一四・二 詩九〇 ソ母前一六・七 代上 一 詩七二・一
ナ代上二三・一四、 二九・二

七 獸物をなせり 七 その神の家の奉事のために獻げたるものは金五千タラント一萬ダリク銀一萬タラント銅一萬八

八 千タラント鐵十萬タラント 八 また寶石ある者はゲルシヨン人エヒエルの手に託て之を神の家の府庫に納めたり

九 彼ら斯誠意よりみづから進んでエホバに獻げたれば民その獻ぐるを喜べりダビデ王もまた大に喜びぬ

一〇 茲にダビデ全會衆の前にてエホバを頌へたりダビデの曰く我らの先祖イスラエルの神エホバよ汝は世々限

二 なく頌へまつるべきなり 二 エホバよ權勢と能力と榮光と光輝と威光とは汝に屬す凡て天にある者地にある者は

三 みな汝に屬すエホバよ國もまた汝に屬す汝は萬有の首と崇られたまふ 富と貴とは共に汝より出づ汝は萬有を

四 主宰たまふ汝の手には權勢と能力あり汝の手は能く一切をして大ならしめ又強くならしむるなり 然ば我儕

の神よ我儕今なんぢに感謝し汝の尊き名を讚美す 但し我ら斯のごとく自ら進んで獻ぐることを得たるも我は

何ならんやまた我民は何ならんや萬の物は汝より出づ我らは只汝の手より受て汝に獻げたるなり 汝の前に

ありては我らは先祖等のごとく旅客たり寄寓者たり我らの世にある日は影のごとし望む所ある無し 我らの神

エホバよ汝の聖名のために汝に家を建んとて我らが備へたる此衆多の物は凡て汝の手より出づ亦皆なんぢの所有

なり 我神よ我また知る汝は心を鑒みたまひ又正直を悦びたまふ我は正き心をもて眞實より此一切の物を獻げ

たり今我また此にある汝の民が眞實より獻物をするを見て喜悅にたへざるなり 我らの先祖アブラハム、イサ

ク、イスラエルの神エホバよ汝の民をして此精神を何時までもその心の思念に保たしめその心を固く汝に歸せし

めたまへ 又わが子ソロモンに完全心を與へ汝の誠命と汝の證言と汝の法度を守らせて之をことごとく行はせ

我が備をなせるその殿を建させたまへ

二〇 ダビデまた全會衆にむかひて汝ら今なんぢらの神エホバを頌へよと言ければ全會衆その先祖等の神エホバ
 二一 を頌へ俯てエホバと王とを拜せり 而して其翌日に至りてイスラエルの一切の人のためにエホバに犠牲を獻げ
 二三 エホバに燔祭を獻げたり其牡牛一千牡羊一千羔羊一千またその灌祭と祭物夥多しかりき 三日 その日彼ら大に喜び
 てエホバの前に食ひかつ飲み

さらに改めてダビデの子ソロモンを王となしエホバの前にてこれに膏をそよぎて主君となし又ザドクを
 祭司となせり かくてソロモンはエホバの位に坐しその父ダビデに代りて王となりその繁榮を極むイスラエル
 二四 みな之に従がふ 二四 また一切の牧伯等勇士等およびダビデ王の諸の子等みなソロモン王に服事す 二五 エホバ、イ
 スラエルの目の前にてソロモンを甚だ大ならしめ彼より前のイスラエルの王の未だ得たること有ざる王威を之に
 賜へり

二六 夫エツサイの子ダビデはイスラエルの全地を治めたり 二七 そのイスラエルを治めし間は四十年なり即ち
 二八 ヘブロンにて七年世を治めエルサレムにて三十三年世を治めたりき 二八 遐齡にいたり年も富も尊貴も満足て死
 二九 其子ソロモンこれに代りて王となる 二九 ダビデ王が始より終まで爲たる事等は先見者サムエルの書預言者ナタン
 三〇 の書および先見者ガドの書に記さる 三〇 其中にはまた彼の政治とその能力および彼とイスラエルと國々の諸の
 民に臨みしところの事等を載す

歴代志略上 をはり

イE上一・三五、三九 一・二二 傳二・九 母後五・五
 ロ傳八・二 二母後五・四 王上二 へ制三五・八
 ハ王上三・一三 代下 二二 代上二三・一

チ但二・二一